

令和 7（2025）年度
日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業（南米地域）
成果報告書

筑波大学
国際局国際室

本報告書は、文部科学省政府開発援助外国人留学生受入推進事業委託費による

委託業務として、筑波大学が実施した令和 7 年度日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

【目次】

1. 事業全体概要	5
2. 令和 7（2025）年度の実施体制	5
3. 本事業の全体像	6
4. 重点国を中心とした最近の情勢変化を踏まえた対応について	8
(1) 長期の停滞と治安情勢の悪化の中で期待される日本留学	8
(2) 長期の経済停滞	8
(3) 治安情勢の悪化	9
(4) 米国トランプ政権の西半球重視政策	10
(5) 主要国の情勢	11
(6) 海外への人材流出	12
(7) 日本への留学という選択肢の高まり	13
5. 令和 7（2025）年度活動実績	14
(1) 南米からの留学生受入に関する国内高等教育機関間の情報共有・連携強化	14
(2) 対象国における現地機関・団体との連携強化	17
(3) デジタルメディアを活用した日本留学広報	21
i. 南米地域における情報接触特性の把握	21
ii. ソーシャルメディア公式アカウントによる情報発信	21
iii. 投稿実績・反響	22
iv. 関連オンライン情報の集約・周知	22
(4) フェア・対面広報を支える日本留学促進キットの整備	22
i. 日本留学促進キットの位置付け	22
ii. 大学紹介冊子の作成	22
iii. 動画・映像コンテンツの活用	23
(5) 日本留学フェアの展開	23
i. 日本留学フェア・説明会の開催	23
ii. 留学フェアへの参加	48
5. 令和 7 年度アンケート結果分析	63
(1) オンラインフェア	63
i. 背景：対象南米 5 か国（ブラジル、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ペルー）の動向	63
ii. オンラインフェア参加登録者アンケート結果の概要	64
iii. オンラインフェアの参加者プロフィール	65
(2) スペイン語圏における日本留学フェアの開催時期及び実施方法の最適化に向けた事前アンケート結果の分析	72

6. 令和7年度の総括、課題と次年度への展望	73
(1) 令和7年度の総括	73
(2) 令和7年度における課題.....	74
(3) 次年度（令和8年度）への展望.....	74

1. 事業全体概要

本事業は、令和 10 年までに南米からの日本留学生数を令和 4 年比 1.4 倍（1,726 名）に増加させることを目標とする。筑波大学の海外オフィスや学術ネットワークを活用し、日本留学の魅力発信や渡日前日本語学習支援、卒業後のキャリアデザインまで含めた総合的なプロモーションを行うものである。

最重点国はブラジルとペルーで、加えてコロンビア、アルゼンチン、チリ、パラグアイなどにも展開した。サンパウロとリマの拠点を活用し、以下の活動を実施した。

① 留学生受入・キャリア支援

国内高等教育機関の連携を強化し、「南米留学生受入校連絡会」を拡充する。現地商工会、JETRO、企業などの協力を得て、留学後のキャリアパスに関する情報提供を行い、キャリアデザイン支援を提供した。

② 現地機関・帰国留学生との連携強化

在外公館、教育機関、JETRO、日系人団体、日本語教育機関などとネットワークを強化し、現地の留学ニーズや人材育成情報を収集・共有する。日本の高等教育機関のプログラムや就職支援情報を発信した。

③ 広報・リクルーティング活動

現地のニーズに即した日本留学情報をオンライン・対面のメディアやイベントを通じて発信。留学フェア、拠点展示、個別相談などを実施し、日本留学に関心の高い層への訴求を強化した。

④ 渡日前日本語学習支援

現地の日本語教育機関、教師団体、帰国留学生、日本語教育プラットフォーム JV-Campus と連携し、日本留学やキャリア形成のための日本語学習機会を提供した。

⑤ 在日南米人への留学広報

在日南米コミュニティや大使館と連携し、留学相談や情報収集を実施。在日 2 世の進学支援として、日本の大学・専修学校進学相談会の開催や地元自治体との連携を強化した。

これらの取り組みを通じて、日本留学の促進と南米諸国との教育交流の深化を進めた。

2. 令和 7（2025）年度の実施体制

現地拠点は、本事業先行フェーズにおいてサンパウロ大学敷地内に設置した筑波大学サンパウロオフィスに加え、令和 5（2023）年度 11 月にペルー日系人協会会館内に設置した Study in Japan オフィスを拠点として活動を展開した。

アドバイザーとして、サンパウロオフィス及びスペイン語諸国での活動強化のため、地域研究、国際協力活動での当該諸国でのフィールドワーク経験及び高いスペイン語運用能力を有し、中南米地域での現地大学及び企業団体を含む関連団体とのネットワーク、研究教育交流の経験と実績を持つ日本人大学教員経験者 2 名を配置した。実務部隊として、日本での留学及び国際経験が豊富なブラジル人及びペルー人職員をコーディネーターとして配置し、サンパウロ及びリマを拠点に現地での事業活動を展開した。なお、コーディネー

ターは長期出張の形で派遣され、現地高校・大学、関連機関・団体との連絡調整、日常的な留学相談対応、各種学生募集イベントの現地開催等を行った。

現地活動の統括・事務支援は国際室が行った。

3. 本事業の全体像

本事業は、事業最終年度である令和10年5月1日における南米諸国から日本の高等教育機関に留学する学生数を事業開始前年度の令和4年5月1日現在(1,233名)の1.4倍(1,726名)に増加させることを到達目標とした。これを達成するために、筑波大学が有する海外オフィス、学術ネットワーク等を基に本事業先行フェーズでの実績とノウハウを活用し、現地関連省庁・機関・団体と連携して、日本留学の魅力の発信、渡日前日本語学習支援を含む留学準備支援、卒業後のキャリアデザインに至る日本留学のプロモーション、個別相談・支援活動を展開した。

国外への学生のモビリティが高く、日系人社会の存在やアニメ・マンガへの高い関心による日本への高い親和性を有し、私費留学が可能な経済力を持つ層が比較的大規模なブラジル、ペルーの2カ国を最重点国に設定し、さらにコロンビア、アルゼンチン、チリなどのスペイン語圏にも活動を展開した。先行フェーズにおいてブラジル・サンパウロ及びペルー・リマに設置した拠点を基幹としてブラジル、ペルーを中心としたスペイン語圏担当のコーディネーターを配置した。

〈日本の高等教育機関への本事業対象地域での留学生数増加の数値目標〉

拠点地域/年度	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	事業開始 前比
ブラジル	678	759	766	834	902	970	1,037	1.53
ペルー	149	171	186	191	201	213	218	1.46
コロンビア	118	124	127	133	139	143	150	1.27
アルゼンチン	93	98	100	104	109	112	118	1.27
チリ	80	84	86	89	92	98	102	1.27
重点国全体	1,118	1,236	1,267	1,351	1,443	1,535	1,624	1.45
南米全体	1,233	1,418	1,517	1,554	1,591	1,652	1,726	1.4

※令和の、日のデータによる。

また、国内・現地活動を合わせ以下の活動を展開した。

①国内高等教育機関・関連機関の連携による留学生受入・キャリアデザイン支援の展開

国内の高等教育機関間の情報共有・連携の場として確立した「南米留学生受入校連絡会」を学術・文化交流機関・団体、企業等とのネットワークまで拡充し、総合的な学生の受け入れ・キャリア支援を展開した。年2回程度の連絡会開催による情報共有に加え、日本留学希望者からの広範な問合せ対応、留学情報、渡日前教育、キャリアデザイン支援コンテンツの整備と発信を実施した。

②対象国における現地機関・団体、帰国留学生との連携強化

本事業の先行フェーズにおいて構築した対象国における在外公館、大学・高校などの教育機関、JETRO 事務所、日系人団体、日本商工会議所、帰国留学生同窓会、国際交流基金、日本語教育機関とのネットワークを強化し、現地の学生の動向や日本留学に対するイメージ、学生に届く広報手段、現地の人材育成ニーズと帰国留学生のキャリアに関する情報の収集・共有を行った。

③現地事情・ニーズに即し、広がりや深みのある広報・リクルーティング活動の展開

上記の国内外ネットワークを活用して得られた現地事情・ニーズと、日本留学・日本あるいは帰国後のキャリアデザイン情報を的確に繋げるマーケットイン的広報・リクルーティング活動をオンライン、対面等のメディア及び留学フェア、拠点展示、個別相談、連携機関・団体・企業や帰国同窓会のチャンネルを駆使して、広範な広報活動と日本に対する高いフィデリティを持つ層への訴求活動を展開した。特に、日本留学の魅力をいつでも体験できる常設の場としての拠点機能を強化し、新たな広報チャンネル展開を行った。

④渡日前日本語学習支援ネットワークの強化

現地日本語教育機関、教師団体、国際交流基金、日本語話者の帰国留学生、JV-Campus と連携し、文化継承や教養としての日本語を超えた、日本留学及びキャリアデザインの選択肢の拡大に寄与する渡日前日本語学習機会を広く提供し、日本留学への関心の惹起から具体的準備への誘導を図った。

⑤在日南米人への日本留学広報

在日大使館、在日コミュニティや NGO と連携して周知広報・留学相談活動、在日南米出身者の日本の高等教育機関への進学への関心等に関する情報収集を引き続き行っていく。また、在日 2 世の日本の大学への進学・高度人材化を主たるターゲットとし、既に行っている在日ブラジル人コミュニティに向けた留学相談をベースにしつつ、在日校での日本の大学・専修学校進学相談会開催、地元自治体・コミュニティとの連携によるイベント参加による知名度向上を行う。

4. 重点国を中心とした最近の情勢変化を踏まえた対応について

(1) 長期の停滞と治安情勢の悪化の中で期待される日本留学

重点各国は 2025、26 年にかけて大統領選挙を迎える政治サイクルに入っており、それにとともなう流動的な局面をむかえている。選挙を挟んだ最近の情勢変化を理解する上で、次の 3 点を踏まえる必要がある。

- ① 総じて資源国で伝統的な格差社会という構造的課題を抱える南米各国は、「資源ブーム」（2004～13 年）による高成長の後、コロナ禍を挟み 10 年に及ぶ経済の停滞に直面している。グローバル化と高成長を背景に高まった高等教育への進学熱、社会上昇への期待感は持続しているものの、開発や雇用創出とのミスマッチもあり、高学歴層を含む若年層の失業率は高止まりし、多くが非正規雇用の脆弱な生活を余儀なくされている。
- ② 10 年前から続くベネズエラ情勢の悪化にともない周辺各国は膨大な数の避難民を受入れてきたが、社会不安の増幅とともに、犯罪組織の著しい浸透拡大がみられ、急速に治安情勢の悪化をまねいている。選挙では移民規制や治安対策が最大の争点となり、強硬な対応を求める右派勢力の台頭が地域各国に伝搬している。
- ③ 米国トランプ政権の誕生による西半球重視の安全保障政策への転換が各国を揺さぶり、上記右派勢力に有利な形で大統領選挙に影響を及ぼし、短期的には分断を促し、政治不安を高める可能性がある。

こうした要因を介した情勢の変化を背景に、子弟の教育機会を外国に求める動きが強まりつつあるが、他方、これまで留学先として人気の高かった米国や欧州諸国、域内のアルゼンチン、チリなどで反移民感情を背景に移民規制と留学生受入を抑制する動きが強化されている。現状は優秀な若者に日本への留学を促す好機と捉えることができ、それに沿った戦略的対応が求められる。

(2) 長期の経済停滞

資源国の南米主要国は、21 世紀初頭の「資源ブーム」により高成長を遂げ、実質一人当たり平均で 9000 米ドルまで約 1.5 倍に所得水準を伸ばしたが、「ブーム」終了とともに景気後退にみまわれ、新型コロナ禍とインフレ高進への対応に迫られるなかで、10 年に及ぶ長期の停滞が続いた。一人当たりの実質 GDP は 24 年に「ブーム」終焉時の水準をようやく回復できたが、南米地域はグローバルサウス新興経済圏で最も低い成長率に甘んじて久しい。

2025 年の経済見通しでは、トランプ関税の不確実性が低下し、金や銅など非鉄資源の高騰もあり、GDP 成長率は南米地域平均で 2.4%と前年並みを維持したものの

(ECLAC)、アフリカ・サブサハラの半分という状況に止まり、新興アジアと比べるとさらに大きく見劣りがする。総人口に占める貧困人口も、「ブーム」と社会政策で 30%を切るところまで改善したが、コロナ禍で悪化、その後も改善の動きは鈍く、特にコロンビア、ペルーではコロナ禍前の水準を回復できていない。

国連中南米カリブ経済委員会（ECLAC/CEPAL）では、この長期停滞を「開発の危機」と捉え、「生産的で持続的な包摂型成長」に向け各国に改革を迫っている。3つの要因、1.投資・生産性が低く成長率が低い、2.世界一大きな格差をもち社会流動性が低く結束力が弱い、3.政府ガバナンスの能力や制度が弱い、これら3つの要因（TRAP「罠」）が相互に強め合って、今日の開発の悪循環を招いたというものである。[Development Traps in Latin America and the Caribbean: Vital Transformations and How to Manage Them](#)

実際、南米各国は資源価格の変動にも左右され、安定した成長軌道をたどることができなかった。今世紀初めの「資源ブーム」では中間層が台頭、「21世紀はラテンアメリカの世紀」とする楽観論も登場したが、ブームが終わり、その後の停滞は脆弱な中間層の期待を打ち砕き、「相対的剥奪感」ともいうべき状況をまねいた。この中で政治家エリートによる大規模汚職事案が浮上。不正や格差構造に対する意識が高まり、学校や病院など劣悪な公共制度への不満が噴出、SNSの急速な普及など情報革命を介し、大規模かつ長期にわたる反政府抗議や暴動が起きた。

ブラジルでは「ブーム」終焉直後から全国に広がり、またグローバル化に対応し自由主義経済の下で成長を遂げた優等生の国々（チリ、コロンビア、ペルー）でも、暴力を伴う社会騒乱に発展した。不満は選挙で左派政権の誕生となって吸収されたが、左派政権もインフレ抑制など、いずれも難しい政権運営を強いられた。

主要国において民主主義が維持されているが、制度的な劣化は否めない。政治不信が蔓延し、グローバル化への反動もあり、選挙の度に左右への政権交代が恒常化し、深い対立と分断が政治に投影されている。ペルーのように政党制度において極端な多党化・断片化の現象もみられ、代表制の危機も深刻である。コロナ禍で顕在化した医療や教育の格差は正に係る構造的諸課題、脱炭素やDXなど生産性向上による持続成長の道を切り開くのに必要な改革に向けコンセンサスの構築が求められるが、勢力間の合意によって対処する術を見出せない状況が続いている。左派政権の失政でハイパーインフレに直面したアルゼンチンでは、自由至上主義を自認する極右政権の登場により、極端な歳出削減や政府機能の縮小が断行され、規制解除の実験が進行中である。

(3) 治安情勢の悪化

この停滞と危機を背景に、治安情勢が急速に悪化している。

格差の大きさから治安情勢はこれまでも総じて芳しいものではなく、人口当たりの殺人比率で中南米地域は世界一高い地域となって久しい。イデオロギーに基づき体制転換を目指すかつての武装ゲリラによるものでなく、組織犯罪によるものである。メキシコ、中米に集中していた麻薬カルテル間の抗争による治安の悪化、犯罪組織の影響が南米に及んできたといえよう。

麻薬取引が最大の資金源であるが、南米からパナマ地峡を經由し北上する移民を、人身取引を含め食べ物にする組織犯罪が拡大した。10年で経済規模が4分の1に縮小した破綻国家ベネズエラから、700万人を超す難民が周辺国に流出(コロンビア300万、ペルー150

万、ブラジル・チリが各 50 万人を受け入れた)。それに伴って社会不安が増大、ベネズエラ起源の Tren de Aragua のような犯罪組織が周辺国に浸透した。金価格の高騰もあり、非正規の金鉱山開発からの資金も加わった。恐喝や脅迫が頻発、殺人などが急増、市民生活に甚大な影響を及ぼし、選挙で最大の争点となっている。反社会勢力が IT を通じ組織能力を強めている一方で、地方を含め政府ガバナンスは脆弱で、政治や行政、司法に深く浸透。警察、刑務所にも大きな課題がある。治安問題は地域の GDP を 3% 程度下押しするとみられており、国際開発機関も重要な開発課題として対応に本腰を入れ始めた。[IDB | Alliance for Security Justice and Development](#) (2024.12)

(4) 米国トランプ政権の西半球重視政策

さらに米トランプ政権の再登場で、経済、外交面で不確実性が生まれた。

メキシコで麻薬マフィアとの戦争が始まって 20 年になるが、薬物の流入が一向に止まらないことに痺れを切らしたトランプ大統領は麻薬カルテルなどの犯罪組織を「国際テロ組織」に指定、直接制圧に乗り出した。カリブ海沖に空母と軍用機を常駐させ、「麻薬密売輸送船」とされる船舶の爆破や制裁逃れの石油タンカーを拿捕するなど、カルテルが跋扈し麻薬の輸出国とみなすベネズエラ、コロンビアに圧力をかけた。1 月 3 日にはベネズエラを電撃的な軍事急襲を敢行、マドゥロ大統領を拘束、米国での裁判にかけ荒療治を完遂、安定と復興から体制転換への困難な道筋を試行している。

当初不安視された関税政策は、資源輸出を中心とした南米にとって影響は軽微に留まる。サプライチェーンの再編で恩恵が期待されたが、「米国第一主義」に帰るトランプ政権には期待できなくなった。さらに不法移民への対応、USAID 国際開発庁の解体、強圧的な外交政策などで、米国のもつソフトパワーが低下、反米意識の高まりも懸念される。もっとも南米地域は統合・協力関係がかつてなく弱く分断した状況にあり、ベネズエラに対する軍事行動に対する対米非難はブラジル、コロンビア、メキシコなど左派政権によるものを除けば、総じて穏やかなものに終始した。国際法の問題は残るにせよ、経済破綻をまねき大量避難民を排出し、民主化を求める地域の圧力に抵抗してきた権威主義体制に対する厳しい見方が優位に立っているといえよう。

11 月米国の「国家安全保障戦略」が公表され、中南米を含む西半球が最優先地域に位置付けられた。それまで所与の親米地域として軽視され、中国の進出を許してきた地域を勢力圏の発想の下に取り戻そうとする西半球回帰への政策転換である。またマフィアの支配を許し不法移民を排出し続ける各国政府に対しガバナンスの強化を求めたのは至極妥当な判断といえよう。だが、そこにアメリカ主導の西半球の統合という多国間的な理念やアプローチは欠落している。民主化促進や人権尊重を重視してきた第二次大戦後のリベラルな外交指針も全く影を潜めている。コカの葉の栽培など麻薬生産に依存しない農村経済の振興のための援助体制が歴代米政権によって実施されてきたが、薬物の流入において全く効果がなかったことが政策転換の背景にあるとしても、米国社会をむしばむ麻薬依存など高い需要が薬物の生産・流入の根本にあるとする認識が欠落している。右派政権とは治安対

策で米インテリジェンスとの協力の動きもみられ、「非 NATO 同盟国」としての認定（アルゼンチン、ペルー）など、関係強化に向けた個別の動きもあるが、多国間の協調関係に基づかない一方的、個別的な関与は、地域の分断や混乱に力を貸すことにもなりかねない。

中国が重点国の最大の貿易相手国となって久しく、米国が最大の貿易相手であるコロンビアも左派政権のもとで「一带一路」への参加に踏み切った。中国を念頭においた外国勢力の地域からの排除という西半球重視の政策は非現実的であるが、今後予想される米中対立による地政学的リスクの影響から各国は無縁とはいえ、不安定な局面に遭遇することが予想される。

(5) 主要国の情勢

経済停滞、治安情勢もあり政治不安が高まっている。選挙では厳しい治安対策を求める右派勢力の台頭が顕著となった。トランプ政権の関与も選挙の行方を左右する重要な要素となっている。（大統領選挙をめぐる各国の情勢変化については、別表を参照のこと）

治安情勢が急速に悪化したエクアドルでは、トランプ政権の支持を受け、その回復にまい進する現職の右派ノボア大統領の再選となった。

ボリビアは 20 年続いた先住民を支持母体とする左派政権が行き詰まり、外貨準備の払底、インフレなど、閉鎖型経済の予期された失政が現実となり、与党 MAS（社会主義運動）の分裂と相まって中道右派への政権交替となった。国際金融機関との関係回復など開かれた自由市場経済への転換は、ガソリン価格の補助金撤廃など厳しい内容をとめない、労組の反発を惹き起こしており、パス新政権は困難な運営が続いている。

アルゼンチンでは議会の中間選挙で、自由至上主義を自称する右派ミレイ政権の大胆な改革の成否が問われた。先立って行われた地方選挙で敗北し危ぶまれたが、与党の勝利に終わった。ハイパーインフレの鎮静化、IMF との合意、直前のトランプ政権の金融支援が功を奏した形である。2 年後の再選に向けて改革を進めるチャンス到来だが、いぜんインフレ再燃の兆しもあり、窮乏化生活への国民の耐性が問われる。

チリは共産党と連立した左派ボリッチ政権は、最大目標であった新憲法制定につまずき、低所得層向け改革も進まなかった。少数派先住民の権利保障などリベラルな急進的内容に反発があった。右派の草案も否決され、分断が選挙に持ち込まれた。義務投票で行われた 12 月 14 日の決選投票で、強硬な治安対策や移民管理を訴える最右派のカスト候補が、他の右派勢力の支持を集めて当選した。

ペルーでは支持率が一桁代に低迷したボルアルテ政権が、治安対策に有効な手立てを講ずることができず、10 月議会により大統領解任となった。国会議長が暫定大統領として来年の選挙管理を担うことになった。いわゆる「みかじめ料」を強要され被害を受けた運送業者の抗議ストや「Z 世代」若者の抗議。コンサートでの歌手の殺害が解任の引き金になった。3 年前に左派の大統領が解任され、後継のボルアルテ氏の解任で、10 年で 8 人の大

統領が誕生する混迷をきたした。早速「非常事態」を首都圏にも発動し対応しているが、選挙戦を前に治安情勢に改善は見られない。

初の左派政権として注目されたコロンビアのペトロ政権は、武装勢力との全面的和平交渉は頓挫。暴力を伴う紛争が再燃し、上院議員の大統領候補が演説中に殺害される事件が発生した。元ゲリラ出身のペトロ大統領のゲリラ勢力に融和的な姿勢は麻薬栽培面積の記録的な拡大につながり、トランプ政権から麻薬対策の支援策が打ち切られた。カリブ海での軍事展開、麻薬組織の制圧に向けた武力行使の示唆で、歴史的に親米のコロンビアは米国と対立を強めている。2月ワシントンでのトランプ大統領との会談にこぎつけており、難局を乗り切れるかが焦点である。

ブラジルでは、トランプに共鳴する前大統領派との分断が来年の選挙で再燃する可能性があり、トランプ大統領の関与が懸念される。ボルソナロ前大統領は公民権をはく奪され、禁固刑に服しており出馬できなくなり、トランプファミリーと関係の深い長男が出馬の意向だが、右派勢力はまとまりを欠いている。左派もルーラ後継候補が不在で、80歳を過ぎたカリスマ大統領の再選(4期目)のシナリオが強まっているが、高金利政策が続いており、経済にとって重荷となっている。

〈2025/26 選挙の年 主要国の情勢〉

経済停滞 治安悪化 トランプ政権 → 右派勢力に有利にはたらく

2025	(月)	
エクアドル	(4)	右派ノボア大統領再選(治安対策が争点)
ボリビア	(8)	20年続いた先住民政権 経済失政で行詰り 与党内対立 中道右派へ政権交替(11) 経済安定と自由市場化へ試練
アルゼンチン	(10)	議会中間選挙 極右派ミレイ政権(自由至上主義)勝利 急進的改革の成否問う インフレ抑制 IMFとの合意 トランプ政権の支援
チリ	(11)	左派ボリッチ政権 新憲法制定に失敗 過度のDEIへの反発 右派の制憲案も否決 治安対策重視の極右派へ政権交替(12) 高まる分断
2026	(月)	
ペルー	(4)	政治不信の極致 初の女性ボルアルテ大統領:支持率一桁台に低迷(3%) 治安悪化で議会による解任(10) 39の政党に分散断片化 合意形成困難
コロンビア	(5)	史上初の左派政権 「全面和平」頓挫 議会の反対で改革実現できず 支持者動員し分断加速 暴力の再拡大:候補者上院議員の殺害(6) 麻薬栽培面積増加 麻薬対策めぐりトランプ政権と対立深まる(制裁対象)
ブラジル	(10)	極右前大統領派との分断続く 禁固刑27年 右派の分裂 4期目ルーラ政権の可能性 トランプ政権の関与は

(6) 海外への人材流出

南米は、もともと格差から逃れるために外国に出るという構造的な課題を抱えた地域である。経済の停滞、治安の悪化、政治不安を背景に、海外への人材流出がさらに強まると考えられ、関連の世論調査でもそれを希望する割合が増えている現状がある。

経済停滞が続く中でも高等教育への進学熱はいぜんとして高く、大学の増設も量的に進んでいるが、教育の質の問題や産業とのミスマッチで、若年層の失業率は 20%前後と高止まりしている。キャリア形成を海外でという熱意は、現地での留学フェアにおいても強く感じとれるところである。

他方、最大の受入国であった米国では、トランプ政権の厳格な移民規制への転換の下で、留学生に対する受け入れ環境が一変した。イギリスでも留学生を含む移民受け入れ抑制策により、留学生に対する徴収授業料の大幅な引き上げなどで留学生数が減っている。カナダでも規制が強まった。人気の高かったアルゼンチンでも、経済危機と併せ、大幅な緊縮財政の下で、外国人も無料だった国公立大学の学費が見直されるなど受入環境は厳しさを増している。

他方、日中関係の現状からして、中国からの日本への留学生数は抑制的となるとみられる。

(7) 日本への留学という選択肢の高まり

こうした状況下で、南米の優秀な若者に日本留学を促進する大きな機会が到来したといえる。南米からの留学生という選択肢を政策的に活かすべき好機である。

米トランプ政権の再登場で、前提としてきた戦後の国際秩序が融解し、分断や対立が世界を覆い、予想を超えた出来事が起こり得る環境となった。そうした中で、太平洋という障害のない自由で開かれたスペースで日本と結ばれているのが南米地域である。距離の要素はあるが、安定した人的交流、経済関係が将来的に保障された地域として、日本にとっての重要度は益々高まることが想定される。

南米では日本の多様な文化コンテンツに関心が集まっており、とくに若者の関心を惹きつけている。幸いインバウンドの強い流れが続いている。2025 年は、大阪万博の開催、日伯友好交流年も重なり、ブラジル、ペルー、チリ、ウルグアイの大統領が訪日、内親王の訪伯など要人の往来も活発に行われた。

現地には 300 万人を超す日系社会の存在があり、厚い親日感情の豊かな基盤を築いている。日系社会は移住後の現地での苦難を乗り越え、現地社会の発展に貢献するとともに、日本や日本人に対する信頼感を育み、無形の資産を形成してきた。日系校を含め貴重な文化的インフラを築き、日本文化の継承を目標に掲げ、日本文化・ソフトパワーの発信に寄与するところきわめて大きいものがある。その子弟が日本に留学することを側面支援することは、事業目的に資するだけでなく、政府の掲げる日系社会との連携推進の方針にも叶うことができよう。

また日本にはブラジル人 21 万、ペルー人約 5 万人、全体で 30 万人と中国・韓国に次ぐ規模の日系コミュニティが存在し、日本の産業を支えている。日本への定住を支援する組織団体も多くあり、日本への留学受入のバリアーと日本での就職・定住のハードルは低いと考えられる。

日本への留学を促進する上で重要な要素は日本語教育の推進拡充であろう。世代が3世、4世、5世と進むにつれて、残念ながら日系社会の日本語教育の水準は低下する傾向にある。特に戦後移住が行われなかったペルーではその傾向が強い。共生社会の実現や海外との友好促進において日本語教育が重要であることは政府でも共通認識となっており、日本語教師の認定制度が動き出している。日系社会の日本語教育の水準の維持向上、特に現地の日本語教師の能力や資質の底上げは緊急の課題である。

日本語教育の拡充はまた、非日系の市民や若者に、日本への関心を強め、留学への動機づけを与える重要なファクターである。日本語教育を通じた戦略的情報発信への取り組みが求められる。在外公館、国際交流基金事務所（2023年ペルーのリマに南米スペイン語圏初の事務所が開設され、サンパウロとリマの二元体制が確立した）、日系社会の日本語普及部門、JICA、大学などの関連機関の連携の下、JV-Campusなど持てる資源を活用し、オールジャパンの総力を挙げて、中国の孔子学院に負けない日本語学習機会の創出が求められる。

留学に先立っての日本語の習得は、留学中の日本語運用能力の向上にもつながり、留学生が日本での就職・定住の課題を乗り越える上でブレイクスルーとなることはいままでもない。

5. 令和7（2025）年度活動実績

（1）南米からの留学生受入に関する国内高等教育機関間の情報共有・連携強化

令和6（2024）年に引き続き、令和7（2025）年5月・12月に南米留学生受入校連絡会議を開催、日本留学促進のための海外ネットワーク強化事業（南米地域）の活動紹介、現地の最新情報の紹介、南米留学生の各大学における在籍状況の紹介、日本への短期招聘プログラムの紹介、各国の教育・文化事情の紹介、留学生に対する学生支援体制など現在の課題について情報交換する機会を設けた。同会議について、令和7（2025）年度は59大学・4日本語学校・5機関が参加し、多くの機関との連絡体制を確立した。上記に加え、SNSでの宣伝活動にて学生の関心やニーズ、学術動向等の現地情報の配信にて留学フェア・学術ワークショップ参加案内を行い、本事業の活動を広く波及させた。

〈南米留学生受入校連絡会議参加大学・機関一覧〉

No	国公立大学	部署名
1	北海道大学	国際連携推進本部国際部国際連携課
2	東北大学	アドミッション機構アドミッション課学生募集・広報係、留学生課国際教育係
3	秋田大学	国際課
4	山形大学	エンロールメント・マネジメント部国際交流課

No	国公立大学	部署名
5	筑波大学	アドミッションセンター、人文社会系、システム情報系、生命環境系、医学医療系、国際公共政策専攻、国際局国際室、国際局グローバル・コモンズ、入試課アドミッションセンター、学生部学生交流課
6	千葉大学	学務部国際企画課、学務部留学生課、理事（教育・国際）
7	東京大学	国際交流室、工学系研究科国際推進課国際戦略室、教育・学生支援部国際教育推進課、研究推進部国債研究推進課
8	東京外国語大学	世界言語社会教育センター、国際化拠点室
9	東京工業大学	教育本部アドミッション部門
10	電気通信大学	国際課学術交流係
11	東京科学大学	アドミッションセンター
12	横浜国立大学	学務・国際戦略部グローバル推進課留学生係
13	金沢大学	国際部国際企画課
14	信州大学	グローバル化推進センター、国際部国際企画課
15	三重大学	国際戦略チーム
16	京都大学	大学院教育支援機構
17	大阪大学	国際機構、国際部国際企画課
18	鳥取大学	国際交流センター、国際交流課、教育支援・国際交流推進機構
19	島根大学	国際課
20	岡山大学	学務部国際教育推進課
21	広島大学	IDEC 国際連携機構、国際室国際部留学交流グループ、大学院医系科学研究科
22	九州工業大学	学生支援課留学生支援係
23	九州大学	工学研究院
24	琉球大学	学生部国際教育課
25	会津大学	学生課
26	福井県立大学	国際・留学支援課
27	兵庫県立大学	国際交流・学生課、神戸商科キャンパス

No	私立大学	部署名
1	北海道文教大学	国際学部国際教養学科
2	城西国際大学	入試課
3	慶應義塾大学	グローバル本部、入学センター国際入試担当
4	國學院大學	総合企画部、総合企画部企画課

No	私立大学	部署名
5	芝浦工業大学	国際部グローバルイニシアティブ課
6	上智大学	グローバル教育推進室、入学センター、外国語学部ポルトガル語学科、学事局入学センター
7	東海大学	学長室国際
8	東洋大学	国際部
9	法政大学	入学センター入試課、入学センター入試課国際入試担当
10	武蔵野大学	大学入試事務部
11	明星大学	国際教育センター
12	創価大学	国際部留学生課
13	グロービス経営大学院大学	-
14	ハリウッド大学院大学	国際交流センター
15	国際大学	入学就職支援室
16	福井工業大学	ASEAN 事務所
17	静岡福祉大学	国際交流員会
18	名古屋造形大学	事務部
19	名古屋経済大学	国際交流センター
20	同志社大学	ビジネス研究科、留学生課
21	立命館大学	国際課
22	京都先端科学大学	国際センター
23	京都精華大学	広報グループ
24	京都情報大学院大学	留学生業務部
25	関西大学	国際連携グループ
26	阪南大学	学生部学生支援課
27	甲南大学	全学共通教育センター
28	兵庫大学	留学・国際交流センター
29	神戸情報大学院大学	事務局
30	就実大学	国際交流部
31	立命館アジア太平洋大学	アドミッションズ・オフィス（国際）
32	徳島工業短期大学	国際課、理事

No	日本語学校	部署名
1	学校法人香川学園メ ロス言語学院	事務局
2	学校法人上田学園	国際部
3	学校法人文化学園	国際交流センター
4	学校法人朝日学園船 橋日本語学院	海外広報部

No	関係機関	部署名
1	駐日ブラジル大使館	教育部
2	駐日ペルー大使館	-
3	文部科学省	高等教育局参事官（国際担当）付留学生交流室政策調査係
4	独立行政法人日本学 生支援機構	留学生事業部留学情報課
5	笹川平和財団	第1グループ（戦略対話・交流促進担当）

(2) 対象国における現地機関・団体との連携強化

南米諸国での学生のニーズおよび現地での人材育成ニーズを把握し、留学に関するマッチングおよび現地での情報発信・留学相談を効率的に行うべく、現地の高校、大学、関連機関・団体等を対面またはオンラインにより訪問し、本事業の趣旨説明と協力の依頼および留学生受入・奨学金等に関する情報収集・意見交換を行った。

また、現地機関・団体との連携強化のために、以下のイベントを実施した。

No.	開催年月日	実施形態	〔開催地〕 イベント名
①	R7.9.16	ハイブリッド	〔ブラジル・サンパウロ〕 高等教機関交流イベント
②	R7.10.3	対面	〔日本・茨城県つくば市〕 筑波会議 2026 セッション「Brazil-Japan Partnerships: From Collaboration to Co-Creation」
③	R8.2.9	対面	〔ブラジル・サンパウロ〕 Study in Japan Project 10周年記念式典

① 高等教機関交流イベント

日時：2025年9月16日（月）10:30～13:00

場所：ジャパンハウスサンパウロ（ブラジル・サンパウロ）

登壇機関等：

- ・筑波大学
- ・福井県立大学
- ・横浜国立大学
- ・JV-Campus、Japan hub for Innovative Global Education
- ・愛知県立大学
- ・サンパウロ大学（USP）
- ・京都府立大学

- ・カンピーナス大学（UNICAMP）
- ・サンパウロ州立大学（Unesp）
- ・ESPM
- ・FAUBAI
- ・Study in Japan コーディネーター

日本およびブラジルの大学間における高等教育の国際化に関する意見交換の促進およびネットワーキングの場の提供を目的として、ジャパンハウスサンパウロとの共催により「Institutional Exchange Event」を実施した。

本イベントには、日本の大学・関係機関の代表者に加え、ブラジルの連携大学からパネリストが参加した。ハイブリッド形式で開催され、海外からは京都府立大学、福井県立大学、ならびに関西大学の JIGE 関係者がオンラインで参加した。

参加者は、ブラジル国内の他大学の国際担当職員および大学院生を中心に構成され、約 30 名の参加を得た。

本イベントは二部構成で実施され、前半では日本およびブラジルの大学が、それぞれの国際化の取組や、日伯間の連携事例について発表を行った。

「Study in Japan」事業を通じてブラジル人学生の日本派遣は着実に進展している一方で、ブラジル側大学からは、日本人学生の受入れをいかに拡大するかについて関心が示された。

議論の中では、日本人学生のブラジル留学に対する消極的な傾向の背景として、以下の課題が指摘された。

- ・ブラジルの大学および所在都市に関する情報不足
- ・州立・連邦大学における学士課程が主としてポルトガル語で実施されている点（非ポルトガル語話者にとって履修が困難）

一方で、ブラジル側参加者からは、日本という国の魅力や、日本の大学における教育水準および研究設備（実験室・機器等）の質の高さが評価されており、これらがブラジル人学生や研究者にとって、日本を信頼できる留学・研究先として検討する動機となっているとの見解が示された。

第 1 パネルでは、国際化の進展段階が異なる日本の大学の事例についても議論が行われた。特に、英語による授業の整備や国際連携の構築を進めている段階にある大学として、京都府立大学および福井県立大学の事例が紹介された。両大学の発表者は、日本の大学で学位を取得し、日本で研究者としてキャリアを築いたブラジル出身の教員であった。

両教員は、2023 年 3 月にブラジルおよびベルーで開催された「Study in Japan」フェアに現地参加し、国際連携構築に資するネットワークを獲得した。その成果として、京都府立大学は 2024 年にアラウカリア財団と交流協定を締結したほか、パラナ州の 3 大学（西パラナ州立大学、ミッドウエスタンパラナ州立大学、マリンガ州立大学）との協定も締結した。また、福井県立大学の教員は 2025 年 1 月の「日伯学長会議」に参加し、同国における連携強化への関心を示した。

第2部では、JV-Campus、FAUBAI、Japan hub for Innovative Global Education の各代表者が登壇し、オンライン教育プラットフォームや COIL（オンライン国際協働学習）等の取組について紹介を行った。

JV-Campus は、自らのプラットフォームについて説明し、そのコンテンツの充実度を強調した。学生は日本語学習のための多様なオンライン教材にアクセスできるだけでなく、関心分野の講義を視聴することで、日本の大学における教育内容を具体的に理解することが可能である。また、新たに導入されたマイクロクレデンシャル制度についても紹介がなされた。

FAUBAI は、高等教育機関間のバーチャル交流を促進する「Brazilian Virtual Exchange (BRaVE)」プログラムを紹介した。同プログラムでは、学生が連携大学の海外学生とともに「異文化協働活動 (intercultural collaborative activities)」に参加できる仕組みが提供されている。

また、発表の最後には、ブラジル政府により新たに実施される研究資金プログラム「CAPES-Global.edu」が紹介された。本プログラムは、最大5年間にわたり共同研究プロジェクトを支援するものであり、国際的な研究ミッションへの資金提供に加え、博士課程学生、ポスドク研究者、教員に対する奨学金支援を含む。

既にブラジルの大学と連携関係を有する日本の大学にとっては、本制度を活用することで、国際共同研究のさらなる発展が期待される。

最後の発表では、Japan hub for Innovative Global Education (JIGE) の取組が紹介された。JIGE は、日本政府が策定した教育の国際化推進の指針である J-MIRAI Initiative の目標に基づいて活動しており、2033年までに留学生数の拡大および卒業後の就職率向上を目指している。

JV-Campus が完全オンライン型の取組であるのに対し、JIGE は「ブレンデッド・モビリティ」を提供している。これは、オンライン交流と対面交流を組み合わせた新たな留学モデルであり、学生間のオンライン活動から開始し、その後、相手大学での対面活動へと移行する構成となっている。

各パネル終了後には、参加者間でのネットワーキングおよび名刺交換の時間が設けられた。本事業では、留学フェアの実施に加え、日伯両国の高等教育の国際化に関する意見交換の機会を提供し、新規連携の創出および既存連携の強化を図った。

② 筑波会議 2026 セッション「Brazil-Japan Partnerships: From Collaboration to Co-Creation」

日時：2026年10月3日（金）16:00～17:25

場所：つくば国際会議場

登壇機関等：

- ・筑波大学
- ・ブラジル日本文化福祉協会

・株式会社サザコーヒー／株式会社サザコーヒーロースター

10月1日から3日間にわたり、つくば国際会議場において筑波会議 2025 が開催された。筑波会議は、世界各国から産官学の優秀な人材が集い、「社会と科学技術」に関する諸課題について議論を行い、ネットワークを形成することを目的とした国際会議である。

筑波大学はブラジルより、ブラジル日本文化福祉協会名誉会長である石川レナト氏を招聘し、10月3日に「Brazil-Japan Partnerships: From Collaboration to Co-Creation」と題するセッションを開催した。

当該セッションでは、大根田修筑波大学副学長（国際担当）、小田竜也筑波大学附属病院副病院長、株式会社サザコーヒー・株式会社サザコーヒーロースター鈴木太郎代表取締役社長、福重瑞穂筑波大学南米地域拠点長、秋山肇筑波大学人文社会系助教による発表および報告が行われた。セッションは、石川氏および永田学長によるスピーチをもって締めくくられ、本学とブラジルとの友好関係および協力関係のさらなる発展について言及がなされた。セッションは終始和やかな雰囲気のもと、盛会のうちに終了した。

③ Study in Japan Project 10 周年記念式典

日付：2026 年 2 月 9 日（月）10:30～13:00

場所：ブラジル日本文化福祉協会（Bunkyo）貴賓室（2 階）

登壇機関等：

- ・筑波大学
- ・サンパウロ大学
- ・在サンパウロ日本国総領事館
- ・ブラジル日本文化福祉協会
- ・文部科学省

2026 年 2 月 9 日、ブラジル・サンパウロの文協（Bunkyo：ブラジル日本文化福祉協会）貴賓室において、「Study in Japan Project」ブラジル事業の 10 周年記念式典が開催された。本式典には、過去 10 年間にわたり本事業の実施および拡大に寄与してきた学術・外交・日系団体等、計 20 機関の関係者が参集した。

日系団体に加え、ブラジルの連携大学からも参加があり、Paulo Braz 氏（当時 AUCANI-USP 学長代行）および Myrian Nunomura 氏（サンパウロ大学リベイラン・プレト校体育・スポーツ学部）がサンパウロ大学を代表して出席した。また、Renato Oliveira 氏がカンピーナス大学を代表して参加した。

ブラジルに拠点を置く日本関連機関からは、在サンパウロ日本国総領事館、JETRO サンパウロ、国際交流基金、ブラジル日本商工会議所等が参加した。さらに、日本語教育機関であるブラジル日本文化同盟およびブラジル日本語センター、ならびにサンパウロの主要同窓会組織（ABMON、ASEBEX、ABJICA）も出席した。加えて、長年の協力団体で

あるブラジル都道府県人会連合会（サンパウロ日本祭り主催）およびジャパンハウスサンパウロの代表も参加し、式典に彩りを添えた。

式典は日伯双方の関係者による挨拶で開幕した。まず、大根田修筑波大学副学長（国際担当）および永田恭介筑波大学長による開会挨拶が行われ、続いて鈴木誉里子在サンパウロ日本国総領事、Paulo Braz 氏、西尾ロベルトブラジル日本文化福祉協会会長、松浦重和氏（文部科学省審議官（高等教育局及び科学技術政策連携担当））より祝辞が述べられた。

式典において、福重瑞穂筑波大学中南米地域拠点長が登壇し、ブラジルにおける「Study in Japan Project」の 10 年間の活動実績について総括的な報告を行った。

これまでの主な取組としては、留学フェアの開催、大学・学校訪問、奨学金および日本留学に関する説明会の実施、ならびに日本での高等教育進学を志望する学生への継続的支援が挙げられる。これらの活動は、ブラジル人学生に対する日本の高等教育機会へのアクセス拡大に寄与するとともに、両国の教育機関間における連携強化にも貢献してきた。

式典後には昼食会が開催され、参加者間での意見交換および関係強化の機会が設けられた。本記念行事は、ブラジルにおける「Study in Japan Project」にとって重要な節目となるものであった。学術機関、外交関係者、関連団体が一堂に会したことで、本事業が多様な関係者を結び付け、日本の大学への留学機会の発信を促進する中核的役割を担っていることが改めて示された。

(3) デジタルメディアを活用した日本留学広報

i. 南米地域における情報接触特性の把握

本事業の先行フェーズにおける活動の経験から、当該地域の学生は Facebook、Instagram 及び YouTube を情報源、コミュニケーションツールとして多用する傾向があり、文字情報よりも画像・映像情報を好むことを認識している。この傾向を踏まえ、視覚的に訴求力の高い情報発信を軸とした広報戦略を採用した。

また、ブラジルにおいては、日本留学希望者の中に、英語または日本語による学位取得を志向する学生が混在している一方、外国語（英語・日本語）に対する心理的ハードルが依然として高い学生も多い。このような状況を踏まえると、現地語で情報を発信することは、説明会や広報内容に対する理解度および参加率を高める効果があると推測される。また、高校生の留学においては保護者が進路決定に大きな影響力を持つことから、保護者に対しても十分に理解しやすい形で日本留学の情報を提供することが重要である。そのため、現地語による情報発信は、学生本人のみならず保護者の不安や懸念の軽減にも寄与し、より効果的な日本留学広報を可能にすると考えられる。以上を踏まえ、本事業ではポルトガル語による情報発信に加え、令和 2（2020）年度に対象地域を南米全体へ拡大したことに伴い、スペイン語による情報発信を継続している。

ii. ソーシャルメディア公式アカウントによる情報発信

本事業では、ポルトガル語およびスペイン語による以下のソーシャルメディア公式アカウントを運用し、日本留学に関する情報発信を集中的に行った。

- Facebook: Study in Japan Global Network Project - South America

<https://www.facebook.com/StudyinJapanBR/>
<https://www.facebook.com/StudyinJapanGNP/>

- Instagram

ポルトガル語: <https://www.instagram.com/studyinjapanbr/>

スペイン語: https://www.instagram.com/studyinjapan_latam/

投稿内容は、大学紹介、教育プログラム、日本での留学生活、帰国留学生の体験談、奨学金情報、卒業後のキャリアパス（日本国内就職事例を含む）等、学生および保護者の関心・懸念事項を意識して構成し、手短な文章と画像・動画を組み合わせて現地語で発信した。

iii. 投稿実績・反響

令和7年度におけるFacebookおよびInstagramへの投稿数は、令和7年4月から令和8年2月までで320件となった。令和8年3月31日現在のフォロワー数は、Facebookがブラジル734人、スペイン語圏12,252人、Instagramがブラジル16,865人、スペイン語圏16,450人であり、いずれも前年度に比べてフォロワーが増加し、南米地域における安定的な情報接触基盤が形成された。その他、ソーシャルメディアを通じた日本留学に関する問い合わせ対応、1,381件の相談対応を行った。

iv. 関連オンライン情報の集約・周知

ソーシャルメディア及び下記の本事業公式ウェブサイトを通じ、日本学生支援機構による英語学位プログラム一覧、日本語e-learning教材、JV-Campus 日本語ひろば（日本の高等教育機関が提供する日本語学習コンテンツのポータルサイト）等の有用なオンライン情報を集約し、留学希望者に周知した。

- Study in Japan ウェブサイト

ポルトガル語: <https://www.estudenojapao.com/>

スペイン語: <https://www.estudenojapao.com/es>

(4) フェア・対面広報を支える日本留学促進キットの整備

i. 日本留学促進キットの位置付け

本事業では、留学フェアや説明会等の対面広報を効果的に実施するため、大学情報、日本留学の心得、日本語独習eラーニング教材等を体系的にまとめた「日本留学促進キット」を整備・アップデートを行った。冊子作成および各種コンテンツ制作は、本キットの構成要素として位置付けられる。

ii. 大学紹介冊子の作成

南米地域からの留学生受入れに積極的な日本の大学情報を取りまとめるため、各大学に広報素材提供を依頼し、情報をアップデートした大学紹介冊子を作成した。

令和7年度は、オンライン活動および現地フェア配布を想定し、電子版および紙媒体の双方を作成した。

電子冊子は、本事業ウェブサイトおよびSNS上で公開し、留学希望者が自由にダウンロードできる形式としたほか、オンライン説明会等でも活用した。

iii. 動画・映像コンテンツの活用

現地学生の動画コンテンツへの関心の高さを踏まえ、冊子に加えて、大学紹介や留学体験を紹介する動画・映像コンテンツを制作し、日本留学促進キットの一部としてSNS等で発信した。今後は、動画コンテンツのさらなる充実が課題である。



図1：各大学の概要やプログラムが掲載された紹介冊子（左：表紙、右：大学紹介ページ）

(5) 日本留学フェアの展開

i. 日本留学フェア・説明会の開催

令和7（2025）年度は以下の通り日本留学フェア、高校・大学での説明会を開催した。

No.	開催年月日	実施形態	〔開催地〕 イベント名
①	R7.6.27	オンライン	第1回 Study in Japan Connect! オンラインウェビナー
②	R7.7.11-13	対面	〔ブラジル・サンパウロ〕サンパウロ日本祭り
③	R7.8.20-21	オンライン	第2回 Study in Japan Connect! オンラインウェビナー（ブラジル対象）
④	R7.9.10	対面	〔ブラジル・マナウス〕マナウス軍事学校 Study in Japan 説明会
⑤	R7.9.12	対面	〔ブラジル・マナウス〕アマゾナス連邦大学(UFAM) Study in Japan フェア
⑥	R7.9.13	対面	〔ブラジル・マナウス〕西部アマゾン日伯協会(Nippaku) Study in Japan フェア

No.	開催年月日	実施形態	〔開催地〕 イベント名
⑦	R7.9.14	対面	〔ブラジル・サンパウロ〕教育フェア 2025 –ジャパン・ハウス サンパウロ Study in Japan フェア
⑧	R7.9.15	対面	〔ブラジル・サンパウロ〕ブリティッシュ・カレッジ・ブラジル 向け Study in Japan フェア
⑨	R7.9.15	対面	〔ブラジル・サンパウロ〕コレジオ・エタバ・サンパウロ校向け Study in Japan フェア
⑩	R7.10.15	オンライン	第2回 Study in Japan Connect! オンラインウェビナー（南米 スペイン語圏対象）
⑪	R7.10.22	対面	〔ペルー・リマ〕ホセ・ガルベス日本学校 Study in Japan 説明 会
⑫	R7.10.23	対面	〔ペルー・リマ〕ラ・ユニオン高校 Study in Japan 説明会
⑬	R7.10.24	対面	〔ペルー・リマ〕COAR 高校 Study in Japan 説明会
⑭	R7.10.25	対面	〔ペルー・リマ〕鶴日本語学校 Study in Japan 説明会
⑮	R7.10.27	対面	〔ペルー・リマ〕カトリカ大学（PUCP）Study in Japan 説明 会
⑯	R7.10.28	対面	〔ペルー・リマ〕サンマルコス大学 Study in Japan 説明会
⑰	R7.11.4	対面	〔コロンビア・ボゴタ〕イングリッシュ・スクール向け Study in Japan フェア
⑱	R7.11.4	対面	〔コロンビア・ボゴタ〕グラン・ブレターニャ校向け Study in Japan フェア
⑲	R7.11.5	対面	〔コロンビア・ボゴタ〕ロス・アンデス大学日本センター Study in Japan フェア
⑳	R7.11.7	対面	〔ペルー・リマ〕カトリカ大学（PUCP）向け Study in Japan フェア
㉑	R7.11.8	対面	〔ペルー・リマ〕ペルー日系人協会（APJ） Study in Japan フ ェア（1）
㉒	R7.11.9	対面	〔ペルー・リマ〕ペルー日系人協会（APJ） Study in Japan フ ェア（2）
㉓	R7.11.24	オンライン	ラ・フロンテーラ大学 国際週間 Study in Japan 説明会
㉔	R7.12.13	オンライン	中央ペルー大学 国際週間 Study in Japan 説明会
㉕	R8.2.20	オンライン	Study in Japan オンラインフェアプレイベント（南米スペイン 語圏対象）
㉖	R8.2.21	オンライン	Study in Japan オンラインフェアプレイベント（ブラジル対象）
㉗	R8.2.27	オンライン	Study in Japan オンラインフェア

① 第1回 Study in Japan Connect! オンラインウェビナー

日時：6月27日（金）8:00～9:35（日本時間）

実施形態：オンライン

内容：日本の大学における英語プログラム紹介と奨学金情報の案内

登壇機関等：

・山形大学

・在ブラジル日本国総領事館

・ Study in Japan コーディネーター

参加者数：120 名

第1回 Study in Japan Connect! ウェビナーは、スペイン語圏およびブラジルの参加者を対象として企画・実施した。スペイン語話者およびポルトガル語話者の双方のニーズに対応するため、使用言語は英語とした。

当日は、Study in Japan コーディネーターによる冒頭説明の後、山形大学の Larry Lopez 教授より、山形大学における森林科学分野および自身の研究室を紹介する事前収録の講義が行われた。続いて、コーディネーターから日本の奨学金制度および留学プログラムに関する説明を行い、最後に在ブラジル日本国総領事館より、ブラジルにおける国費外国人留学生制度の概要について紹介があった。

Microsoft Teams の機能の不具合により、ライブ参加者数は当初の想定を下回ったものの、ウェビナー終了後に Study in Japan の公式 YouTube チャンネルにて配信を行い、最終的に合計 84 回の視聴を記録した。



SNS promotion of the event

イベントのソーシャルメディアプロモーション

② サンパウロ日本祭り

日時：7月11日（金）～13日（日）

実施形態：対面

開催地：ブラジル・サンパウロ

登壇機関等：

・筑波大学

資料参加機関

・北海道大学

・ Study in Japan コーディネーター

・東北大学

- ・東京大学
- ・東京外国語大学
- ・電気通信大学
- ・横浜国立大学
- ・熊本大学

- ・國學院大學
- ・上智大学
- ・京都先端科学大学
- ・立命館アジア太平洋大学

参加者数：1000 名

2025 年 7 月 11 日から 7 月 13 日にかけて、「日伯 130 年の友好関係」をテーマにサンパウロ市サンパウロ・エキスポセンターで開催された第 25 回サンパウロ日本祭りにおいて、日本留学ブースを出展し、広報・個別相談を行った。当日は筑波大学が現地参加し、その他 11 大学の資料を配付した。資料の展示・配布を行った。

サンパウロ日本祭りは、世界最大級の日本関連イベントであり、毎年、日本文化や食に関する多様な催しが行われるほか、日本各地の県人会なども出展し、日本に関心を持つ日系・非日系ブラジル人が例年数多く来場するため、日本留学広報の潜在ターゲット層にアウトリーチする良い機会である。今年度は 3 日間で約 20 万人が来場した。

会場内に設置された日本留学フェアのブースには、日本に関心を持つ高校生、大学生および保護者等、延べ約 1,000 名が来場した。参加機関関係者に加え、日系人団体関係者や帰国留学生が、日本留学の魅力、教育プログラム、奨学金制度、生活情報等について説明を行い、ブース内は終日多くの来場者で賑わった。

また、会場内のプレゼンテーションエリアにおいて、本事業主催による日本留学に関する説明会および情報提供を計 4 回実施し、延べ 80 名が参加した。

③ 第 2 回 Study in Japan Connect! オンラインウェビナー（ブラジル対象）

日時： 8 月 20 日（水）～21 日（木）（各日 日本時間 8:00～9:00）

実施形態：オンライン（Microsoft Teams）

内容：日本の大学による大学紹介ウェビナー

参加大学数：20 大学、1 日本語学校（北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京外国語大学、電気通信大学、横浜国立大学、金沢大学、大阪大学、広島大学、熊本大学、愛知県立大学、國學院大學、芝浦工業大学、上智大学、山梨学院大学、立命館大学、京都先端科学大学、関西大学、立命館アジア太平洋大学、メロス日本語学校）

参加者数：236 名（1 日目：142 名、2 日目：94 名）

イベント後の YouTube 視聴者数（1 か月間公開）：120Study in Japan 南米地域は、ブラジルの学生を主な対象として、日本の大学と現地学生との接点を創出することを目的に、「2nd Study in Japan Connect! ウェビナー」を 2 日間にわたりオンラインで開催した。

本ウェビナーは、2025 年 9 月にブラジル国内（マナウスおよびサンパウロ）で開催予定の留学フェアに連動した事前広報イベントとして実施されたものであり、フェアに現地

参加または資料参加を予定している日本の大学が、各校約 5 分間のプレゼンテーションを行い、大学の特色や教育・研究プログラムについて紹介した。

当日は、ウェビナー冒頭に主催者挨拶およびイベント概要説明を行った後、日本の大学による大学紹介セッションを実施し、最後に質疑応答の時間を設けた。ウェビナー全体は主にポルトガル語で進行され、日本の大学による説明は英語またはポルトガル語で行われた。各大学は、ライブ登壇または事前に提出した録画映像のいずれかの方法で参加した。

参加大学は、国立大学、公立大学、私立大学を含む計 15 大学であり、学部・大学院レベルの多様な進学選択肢が紹介された。2 日間で延べ 236 名が参加し、日本留学に関心を有するブラジルの学生に対して、日本の高等教育機関の魅力を体系的に発信する機会となった。

本取組は、留学フェア本番に先立ち、ブラジルの参加者に日本の大学情報を事前に提供することで、フェア当日の理解促進および相談の質の向上を図る重要な機会となった。また、複数大学が一堂に会するオンライン形式を活用することで、地理的制約を超えた効果的な情報発信が可能となり、今後の日本留学促進に向けた有意義な取組であった。

④ マナウス軍事学校 Study in Japan 説明会

日時：9 月 10 日（水）9:00～10:00（現地時間）

実施形態：対面

内容：高校生を対象とした Study in Japan 説明会

登壇機関等：・在マナウス日本国総領事館

・ Study in Japan コーディネーター

参加者数：100 名（高校生）

マナウス軍事学校における Study in Japan 説明会は、令和 7 年 9 月にアマゾナス連邦大学および西部アマゾン日伯協会で開催した留学フェアの広報を目的として、在マナウス日本国総領事館の提案により実施された。当初、本校が軍関係の教育機関であることから、筑波大学側では実施の是非について懸念が示されたが、総領事館より、同校の卒業生 2 名が現在、文部科学省奨学金を受給し、日本の大学（学士課程）で学んでいるとの説明があった。さらに、そのうちの 1 名が親族訪問のためマナウスに滞在しており、本イベントの運営を支援してくれることとなった。

当日は、陸軍中尉 1 名、物理担当教員、広報担当者の出迎えを受け、校内施設の案内を受けた。同校には、科学的探究活動に特化した設備を備える実験室が設置されており、教室や廊下を含む校内全体が非常に良好な状態で維持管理されていることが確認された。校舎の構成としては、中等前期課程（中学校相当）が 1 階および 2 階、高等課程（高校相当）が 3 階および 4 階に配置されている。

同校の教員および技術職員は全員がブラジル陸軍の将校である点が特徴である。また、通常の中等・高等教育課程に加え、海外やブラジル国内の遠隔地に居住する軍関係者の子弟を対象としたオンライン授業も提供している。これらの遠隔教育を担当する教員専用の

大規模な教室が設けられており、主要都市部以外に赴任する軍関係者の家庭に対しても、教育の継続性を確保する体制が整備されている。

⑤ アマゾナス連邦大学(UFAM) Study in Japan フェア

日時：9月12日（金）13:00～18:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ブラジル・マナウス

内容：Study in Japan 留学フェア

登壇機関等：

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| ・筑波大学 | ・ JICA |
| ・横浜国立大学 | ・西部アマゾン日伯協会 |
| ・國學院大學 | ・アマゾナス連邦大学日文学科 |
| ・在マナウス総領事館 | ・ Study in Japan コーディネーター |
| ・ AMEOJAPAO（同窓会組織） | |

参加者数：約 300 名（高校生、学部生、大学院生、保護者若干名）

本フェア前日に、マナウス市内のバス運転手によるストライキが決定し、これを受けて大学当局は、学生の登校を控えさせる措置として、金曜日（フェア当日）の対面授業の中止および大学食堂の閉鎖を決定した。このような状況下ではあったが、関係者間で協議の結果、当初の計画どおりフェアを実施する判断に至った。

当初、説明セッションへの参加者は少数であったものの、時間の経過とともに徐々に着席者が増加した。コレヒオ・パラス・アテナス校の校長は、教員 2 名と高校生 20 名を引率して来場したほか、UFAM の学部生・大学院生、ならびに他校の高校生が、保護者や後見人とともに来場した。

本フェアはマナウス市で初めて開催する留学フェアであることを踏まえ、可能な限り多くの来場者を確保するため、現地パートナーと連携した集中的な広報活動を行った。在マナウス日本国総領事館からは、地元で著名なテレビ番組のディレクターを紹介いただき、事前に収録した広報動画が放映され、幅広い視聴者層への告知につながった。また、マナウス有数のメディアである G1 ポータルにも、市内イベントの一環として本フェアを紹介する記事が掲載された。さらに、UFAM 広報室の協力により、8 月に実施した Connect! ウェビナーおよび本留学フェアについて、大学公式ウェブサイト上での告知が行われ、フェア終了後には開催報告記事も掲載された。これらの従来型メディアを通じた広報に加え、UFAM、日伯協会、在マナウス日本国総領事館と連携し、Instagram 上での共同投稿を実施した。これにより、広報の総到達範囲をさらに拡大することができた。

本フェアは、前半を参加機関によるプレゼンテーション、後半をブラジル側機関によるプレゼンテーションの二部構成で実施した。ブラジル側機関の説明に想定以上の時間を要したため、全体の進行に遅れが生じ、当初 14:00 終了予定であったセッションは、15:00 頃の終了となった。

國學院大学および横浜国立大学の相談ブースは講堂内に設置することとした。一方、Study in Japan および在外公館等の現地機関のブースは講堂外に設置した。説明セッション終了後は全体として円滑にフェアが進行した。講堂内外において、各機関の担当者が継続的に来場者対応に追われる状況が見られ、全体として活発な相談対応が行われていたことが確認された。

なお、当日は授業が休講となっていた影響もあり、夕方以降に授業を履修しているUFAMの学生の来場は限定的であった。その結果、フェアは当初予定より早い17:15頃に終了した。



國學院大学によるプレゼンテーション

⑥ 西部アマゾン日伯協会（Nippaku）Study in Japan フェア

日時：9月13日（土）9:00～13:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ブラジル・マナウス

内容：Study in Japan 留学フェア

（プレゼンテーション：9:00～10:20／個別相談：10:30～13:00）

登壇機関等：

- | | |
|---------|--------------------------|
| ・筑波大学 | ・在マナウス総領事館 |
| ・横浜国立大学 | ・AMEOJAPAO（同窓会組織） |
| ・金沢大学 | ・JICA |
| ・大阪大学 | ・西部アマゾン日伯協会 |
| ・広島大学 | ・アマゾナス連邦大学日文学科 |
| ・愛知県立大学 | ・Study in Japan コーディネーター |
| ・國學院大學 | |

参加者数：約 400 名（中学生・高校生、学部生・大学院生、保護者多数）

UFAM で開催された留学フェアに参加できなかった来場者の一部が、本フェア（Nippaku）に参加した。土曜日開催であったことから、日伯協会の日本語講座受講生に加え、多くの保護者や中学生・高校生の来場が見られた。

また、杉山欣也教授（金沢大学）の呼びかけにより、大阪大学の岸本恵美教授および Garasino Facundo 教授の 2 名が、日本語・日本文化に関する学会参加にあわせて本フェアに来場し、学生向けプレゼンテーションおよび個別相談を実施した。

⑦ “Education Fair 2025” ジャパン・ハウス・サンパウロ Study in Japan フェア

日時：9 月 14 日（日）10:00～18:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ブラジル・サンパウロ

内容：Study in Japan 留学フェア

登壇機関等：

- ・筑波大学
- ・横浜国立大学
- ・金沢大学
- ・國學院大學
- ・上智大学
- ・山梨学院大学
- ・京都先端科学大学
- ・JV-Campus
- ・在サンパウロ総領事館
- ・JICA
- ・国際交流基金
- ・ASEBEX（同窓会組織）
- ・Japan House São Paulo
- ・Study in Japan コーディネーター

参加者数：約 1,500 名（中学生・高校生、学部生・大学院生、保護者多数）

イベント後の YouTube 視聴者数（ジャパン・ハウス・サンパウロのチャンネルにて公開）：

ポルトガル語翻訳版 視聴数：834 <https://www.youtube.com/live/SkaGy5ZzL5w>

日本語翻訳版 視聴数：334 <https://www.youtube.com/watch?v=leS5dvs5Yh4&t=880s>

令和 6 年度の経験を踏まえ、今回は準備段階からジャパン・ハウス・サンパウロ（JHSP）のデザインチームと密に連携し、イベントの企画を進めた。両者で協議の上、イベントのビジュアルデザインを共同で制作するとともに、「Education Fair 2025」という中立的なイベントタイトルを採用した。Study in Japan が Instagram 投稿等で使用しているカラーパレットを基にしたブランドカラーを共有し、それを踏まえて JHSP のデザインチームがイベント全体のビジュアルコンセプトを構築した。

また、JHSP 側が建築家に空間設計を委託し、JHSP のコンセプトに沿いつつ、Study in Japan のビジュアル・アイデンティティとも調和した会場空間を実現した。フェアは、2 階のセミナールーム A・B をブース会場、セミナールーム C をプレゼンテーション会場として実施し、令和 5 年 3 月開催時と同様のレイアウトを採用した。

広報面では、JHSP が本イベント専用の告知ページを作成し、8 月下旬にプログラムを公開したほか、サンパウロ市内の主要新聞社の一つに対して取材・掲載の働きかけを行った。当日は、インフルエンサー 1 名を起用し、卒業生への短時間インタビューや、Instagram 上でのストーリーおよびライブ配信を実施した。これらの広報投稿の一部は、現在も同インフルエンサーのアカウント上で閲覧可能である。

一方、Study in Japan 側では、8 月上旬より広報を開始し、Connect! ウェビナーの案内および本フェアの Save-the-Date を、高校・大学、ブラジル日本文化福祉協会（Bunkyo）、在外公館、同窓会組織等に向けて周知した。

JHSP および現地関係機関と連携した広報活動は、極めて高い成果を上げた。当日は 4,200 名以上が施設を訪問し、そのうち 約 1,500～2,500 名が本留学フェアに来場したと推計される。来場者の中には、当初は別の目的で JHSP を訪れていたものの、会場に立ち寄り、参加大学の資料を収集する来場者も見られた。

また、多くの家族連れが終日にわたり会場で時間を過ごしていたことも確認された。例えば、午前中に対応したある家族は、その後館内の Aizomê レストランで昼食をとり、併設されていた展示を鑑賞していた。このような事例は、本イベントと JHSP における展示事業との高い相乗効果を示すものであり、結果として、より幅広い層の来場者を惹きつけることに寄与したと評価できる。

JHSP におけるフェアでは、プレゼンテーションと個別相談ブースを並行して実施した。唯一の課題として、プレゼンテーション会場が想定よりも小さく、関心を持つ来場者全員を収容できなかった点が挙げられる。ただし、すべてのセッションはライブ配信され、現在も JHSP 公式

YouTube チャンネルにてアーカイブ視聴が可能となっている(3月31日現在、ポルトガル語通訳付きの動画が 834 ビュー、日本語通訳付きの動画が 334 ビュー)。

令和 6 年度同様、日本側登壇者は日本語で、ブラジル側登壇者はポルトガル語でプレゼンテーションを行った。一部のセッションでは、例えば ASEBEX による同窓生体験談の発表において、課外活動の紹介に重点が置かれた結果、予定時間を超過し、内容の焦点がやや分散する場面も見られた。また、本来 1 名を想定していた登壇枠に 2 名が登壇したセッションもあり、全体の進行時間が想定より長くなる要因となった。

上智大学の Gustavo Meireles 助教は、10:00～12:30 の時間帯にフェアへ参加したが、専用ブースの設置が困難であったため、Study in Japan ブースにおいて、大学から送付された資料を用いながら説明対応を行った。

また、Nippaku でのフェアと同様に、保護者同伴で来場する学生が多数見られたことから、家族単位で日本の大学への進学に高い関心が寄せられていることがうかがえた。留学先として日本を選択することは、家族の理解・支援・同意が不可欠な重要な意思決定であることを踏まえると、このような保護者の積極的な関与は、多くの家庭が日本留学を現実的な選択肢として真剣に検討していることを示している。



会場風景

⑧ ブリティッシュ・カレッジ・ブラジル向け Study in Japan フェア

日時：9 月 15 日（月）10:00～11:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ブラジル・サンパウロ

内容：Study in Japan フェア

登壇機関等：

- ・筑波大学
- ・横浜国立大学

- ・ 國學院大學
- ・ 京都先端科学大学
- ・ JV-Campus
- ・ ブリティッシュ・カレッジ・ブラジル
- ・ Study in Japan コーディネーター

参加者数：約 100 名（中学生・高校生、小学生若干名、保護者若干名）

本フェアは、ブリティッシュ・カレッジ校内関係者限定のクローズドイベントとして実施された。当日は、スクールカウンセラーである Adriana Caton 氏の出迎えを受けた。同氏は、スクールカウンセラー就任以前に ブリティッシュ・カウンスルの現地コーディネーターとして、英国大学の学校訪問や留学フェアの運営に携わっていた経歴を有しており、その豊富な経験が本ミニフェアの円滑な実施に大きく寄与した。Caton 氏は、保護者向けの校内広報を担当するとともに、適切な会場（円形講堂）の準備を行った。

当日は、Caton 氏および中等部責任者である Ceris Flew 氏から温かい歓迎を受け、ミニフェア準備に先立ち、学校側より軽食の提供もあった。なお、参加者の多くが未成年であったため、Study in Japan 側では写真撮影を控え、学校専属のカメラマンが撮影を行い、後日、イベント報告として 学校公式 Facebook ページに掲載された。

ブリティッシュ・カレッジは、国際バカロレア（IB）ディプロマ課程を提供するインターナショナルスクールであり、授業言語は英語である。そのため、生徒とのコミュニケーションは主に英語で行った。Caton 氏によれば、同校にはブラジル人学生に加え、日本国籍を含む多国籍の生徒が在籍している。

フェア当日は、保護者との相談対応が中心となった。多くの保護者にとって、日本の大学は依然として新しい選択肢であったため、まずは一般的な情報提供から説明を行った。ある保護者はマサチューセッツ工科大学（MIT）の卒業生であり、米国の政治情勢や移民政策を背景に、子息を米国の大学へ進学させることに慎重になっていると述べ、日本の大学に関する詳細な情報を求めた。同氏は、日本の大学で英語による学位取得プログラムが提供されていることに驚きを示すとともに、子息の心理的適応や支援ネットワーク構築の可能性について懸念を示した。これに対し、日本の大学には多様な課外活動（クラブ活動）があり、学生同士の交流機会が豊富であること、また、ブラジル人留学生が新入生の適応を支援するケースが多いことを説明した。

全体として、生徒の関心分野は、工学、医学、法学、経営学、自然科学に集中しており、これは Colégio Etapa、Colégio Miguel de Cervantes、Colégio Eleva といった他の私立学校において確認されている傾向とも一致している。

⑨ コレジオ・エタパ・サンパウロ校向け Study in Japan フェア

日時：9 月 15 日（月）18:00～19:30（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ブラジル・サンパウロ

内容：Study in Japan フェア

登壇機関等

- ・筑波大学
- ・横浜国立大学
- ・京都先端科学大学
- ・JV-Campus
- ・コレジオ・エタパ
- ・Study in Japan コーディネーター

参加者数：50 名（高校生、保護者多数）

コレジオ・エタパの協力により、本フェアのために時間および会場が確保された。プログラムは例年と同様の構成とし、前半は講堂でのプレゼンテーション、後半はカフェテリアでの個別相談を実施した。

本フェアでは、令和 7 年 9 月 6 日に同校で開催された留学フェアに参加した生徒および保護者と再度面談する機会があり、前回の説明を踏まえた追加的かつ具体的な情報提供を行うことができた。生徒の関心分野としては、工学分野が最も高く、次いで経営学、国際関係学、自然科学が挙げられた。

また、ある保護者からは、日本の大学における成績評価の扱いについて懸念が示された。同校では他校と比較して厳格な成績評価基準を採用しており、その結果として成績評価（GPA）が相対的に低くなる可能性があることから、大学入試や奨学金申請において不利に働くのではないかとの不安が表明された。



プレゼンテーション

⑩ 第2回 Study in Japan Connect! オンラインウェビナー（南米スペイン語圏対象）

日時：10月15日（木）8:30～9:30（日本時間）

実施形態：オンライン

内容：日本に在学中の南米出身学生の声を紹介するウェビナー

登壇者：南米出身留学生、Study in Japan コーディネーター

参加者数：137名（当日視聴者数：63、イベント後YouTube視聴者数：74）

本ウェビナーには、工学、社会科学、物理学分野を専攻し、日本の大学に在学中の南米出身学生4名が登壇した。本ウェビナーは、令和7年11月にコロンビアおよびペルーで実施した留学フェアの事前イベントという位置付けで開催したもので、日本留学の機会に関する説明に加えて、フェアの詳細についても紹介した。

当日は、登壇学生から、日本の大学への出願・選考プロセスに関する体験談、日本での学生生活の日常、各自の専門分野に関する学修内容が共有されるとともに、日本留学を志望する参加者に向けて、実践的な助言が提供された。

⑪ ホセ・ガルベス日本学校 Study in Japan 説明会

日時：10月22日（水）9:30～11:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ペルー・リマ

内容：日本留学の機会紹介および留学フェアの広報

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：50名

本説明会は、ホセ・ガルベス日本学校の生徒を対象として実施した2回目の説明会である。同校は、日系コミュニティ内の教育機関の中でも、またペルーの学校全体の中においても、カイゼン（5S）を基盤とした価値観教育と高い教育水準を特徴とする点で特に際立っている。

2024年に実施した初回説明会と同様に、生徒は終始高い集中力をもって説明を聴き、内容に対して強い関心を示していた。なお、2023年度には同校の生徒4名および教員1名が、さくらサイエンスプログラムに参加しており、これまでも継続的な交流実績がある。今回の説明会では、令和7年11月に日秘文化会館で開催した留学フェアについても紹介し、参加を呼びかけることができた。

同校は、日本の学校制度に近い運営方針を採用しており、生徒自身が校内の設備や備品の管理・維持を担う点に特徴がある。説明会は、卒業後の進学先を検討し始めている中等教育最終2学年の生徒を対象に実施した。

また、説明会後には、学校の国際化担当教職員との面談に招かれた生徒 1 名と個別に意見交換を行い、工学分野を中心とした日本の大学への進学に向けた資金面および出願方法の選択肢について助言を行った。

⑫ ラ・ウニオン高校 Study in Japan 説明会

日時：10 月 23 日（木）13:00～14:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ペルー・リマ

内容：日本留学の機会紹介および留学フェアの広報

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：110 名

本説明会は、リマ市の日系コミュニティに属するラ・ウニオン高校において実施した通算 4 回目の個別説明会である。説明会には、卒業後の進路選択を検討している中等教育最終 2 学年の生徒が参加した。

参加者数が多かったこともあり、留学先としての関心は日本に限らず多方面に及んでいたが、その中でも、日本の大学への出願手続きや奨学金・経済的支援制度について具体的な情報を求める生徒が一定数見受けられた。

また、本説明会は、令和 7 年 11 月に日秘文化会館で開催した留学フェアを紹介する機会ともなった。

⑬ COAR 高校 Study in Japan 説明会

日時：10 月 24 日（金）10:30～11:30（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ペルー・リマ

内容：日本留学の機会紹介および留学フェアの広報

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：290 名

本説明会は、令和 6 年 7 月 16 日に実施された初回訪問に続く、ペルーの高等教育成果校（Colegio de Alto Rendimiento: COAR）に対する 2 回目の個別訪問である。中等教育最終 3 学年の生徒を対象に実施し、参加者数は令和 6 年の 81 名から今回は 290 名へと大幅に増加した。生徒は終始高い集中力をもって説明を聴き、内容に対して強い関心と積極的な姿勢を示していた。

本セッションでは、日本留学の機会紹介に加え、令和7年11月に日秘文化会館で開催した留学フェアへの参加の呼びかけを行った。また、校長との面談の機会も得られ、同校の教育運営、教授法、施設・インフラ等について理解を深めることができた。

COAR は、ペルー教育省の管轄下にある公立学校制度であり、全国24地域に1校ずつ設置されている。低所得層出身で学業成績が極めて優秀な生徒に対し、無償で国際バカロレア（IB）水準の教育を提供することを目的としている。ペルーの一般的な中等教育課程が5年間であるのに対し、COAR では後期3年間のみを対象とし、全国の公立学校から成績上位の生徒を選抜して受け入れている。

同校は全寮制を採用しており、生徒は、平日は校内で生活し、週末に帰省する仕組みとなっている。COAR の生徒は、在ペルー日本国大使館を通じて、毎年実施されているさくらサイエンスプログラムに継続的に参加している。現在、COAR は私立の IB 校をも上回るペルー国内で最も評価の高い中等教育機関と広く認識されており、今後、本事業としても COAR との連携を一層強化していくことが望ましいと考えられる。

⑭ 鶴日本語学校における Study in Japan 説明会

日時：10月25日（土）14:00～15:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ペルー・リマ

内容：日本留学の機会紹介および留学フェアの広報

参加者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：75名

本件は、リマ市の鶴日本語学校が主催した文化フェアに、同校の創設者・校長であり、茨城県出身の鶴田豊美氏からの招待を受けて参加し、文化フェアの枠内で実施したものである。同校はソーシャルメディアを通じて本事業のイベント広報等に積極的に協力している。

同校には、日本語および日本文化に強い関心を持つ学習者が多数在籍しており、日本語能力試験（JLPT）受験に対する支援体制も充実していることが確認された。当日の参加者は幅広い年齢層にわたり、学部・大学院進学、奨学金制度、経済的支援等、関心分野も多岐に及んでいた。

本説明会では、日本の大学から提供された広報資料の配布を行うとともに、令和7年11月に日秘文化会館で開催した留学フェアへの参加を呼びかけた。総合的に見て、本説明会の実施は、日本留学への動機づけが高い層との接点を拡大する有意義な機会となり、今後の継続的な連携可能性を示す成果が得られた。



生徒へのプレゼンテーション

⑮ ペルー・カトリカ大学（PUCP）Study in Japan 説明会

日時：10月27日（月）17:00～18:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ペルー・リマ

内容：日本留学（修士課程）に関する情報提供および留学フェアの広報

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：35名

本説明会は、日本の大学における国際修士課程への進学に関心を有する学生を対象として実施したもので、ペルー・カトリカ大学（PUCP）国際課の調整により開催された。本説明会は、令和7年11月に同大学内で2回にわたって開催予定の留学フェアについて周知することを目的として実施した。開催時間帯および内容の専門性を踏まえると、参加者数は35名と、一定の水準を確保する結果となった。



PUCP 学生へのプレゼンテーション

⑩ サンマルコス国立大学における Study in Japan 説明会

日時：10月28日（火）11:00～12:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ペルー・リマ

内容：日本留学（国際修士課程）に関する情報提供および留学フェアの広報

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：75名

本説明会は、日本の大学における国際修士課程への進学に関心を有する学生を対象として実施したものであり、サンマルコス国立大学国際関係課（OGCRI）の調整により開催された。主な目的は、令和7年11月に開催した留学フェアの周知・広報であった。

また、本件は、新たに着任した国際関係課長の Cayo Víctor León 氏と面会する機会ともなり、同氏の手配により講堂を使用して説明会を実施した。当日は合計75名の学生が参加した。

⑪ イングリッシュ・スクール 向け Study in Japan フェア

⑫ グラン・ブレターニャ校 向け Study in Japan フェア

日時：11月4日（火）10:00～13:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：コロンビア・ボゴタ

内容：日本留学の機会紹介および同行大学の紹介

登壇機関等：

- ・筑波大学
- ・國學院大學
- ・Study in Japan コーディネーター

参加者数：

- ・イングリッシュ・スクール：個別相談 40件
- ・グラン・ブレターニャ校：個別相談 30件

本件は、コロンビアにおける 国際バカロレア（IB）校を対象とした初めての Study in Japan フェアとして、同日に連続して2校で実施したものである。両校との調整は、それぞれの学生国際担当部署を通じ、同様の手順で行った。

両校とも、日本留学を主題とした広報イベントへの参加は初めてであったことから、参加状況は中程度にとどまった。コロンビアの IB 校では、従来、米国および欧州への留学志向が強く、日本は比較的なじみの薄い留学先であることが背景として挙げられる。一方で、IB 校の生徒は

英語による12年間の教育課程を修了しており、日本の大学における英語学位プログラムへの進学に適した人材である。この点において、日本の高等教育機関は、工学や技術分野など、他地域と同等またはそれ以上の強みを有する分野を前面に打ち出すことで訴求力を高める余地がある。

本フェアは、英語を用いて日本の大学で学ぶという選択肢を生徒に提示する初期的アウトリーチとして有意義であり、従来主流とされてきた北米や欧州といった地域以外にも留学先の可能性があることを認識してもらう機会となった点で、一定の成果があったと評価できる。

ただし、より多くの日本の大学が対面参加していれば、各大学による個別説明を通じて、学校側および生徒から一層の関心を引き出すことが可能であったと考えられる。例えば、令和5年2月にペルーで実施した事例では、多数の大学関係者が参加したことにより、各校でのプレゼンテーションを通じて学生および学校側の関心を大きく高めることができた。

現在、ボゴタ市内の中等教育機関においては、日系人の多いメデジン市や、ペルー・ブラジルといった国々と比較して、日本の高等教育に関する情報接触の機会が限定的である。そのため、今後は、より多くの生徒を惹きつけるために、継続的かつ強化されたアウトリーチ活動が必要であると考えられる。



グラン・ブレッターニャ校にて

⑭ ロス・アンデス大学日本センターStudy in Japan 留学フェア

日時：11月5日（水）11:00～16:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：コロンビア・ボゴタ

内容：日本側機関によるプレゼンテーションおよび個別相談ブース

登壇機関等：

- ・筑波大学
- ・国学院大学
- ・コロンビア日本商工会議所
- ・在コロンビア日本国大使館

・ Study in Japan コーディネーター

参加者数：プレゼンテーション 120 名／個別相談 約 400 件

本フェアは、コロンビアにおいて初めて開催された大規模な Study in Japan 留学フェアであり、ボゴタ市に所在するロス・アンデス大学日本センターを会場として実施した。イベントには、在コロンビア日本国大使館が参加し、国費外国人留学生制度に関する情報提供を行ったほか、コロンビア日本商工会議所の代表者からは、コロンビア国内の日系企業（伊藤忠丸紅鉄鋼、バケロ・アウトモトーレス・トヨタ・コロンビア、トヨタ通商コロンビア）における就労経験等が紹介された。

プレゼンテーションおよび個別相談ブースはいずれも来場者から高い関心を集め、プレゼンテーション会場は通常定員 100 名を上回り、最大 120 名まで収容する対応を行った。個別相談ブースも終日多くの来場者で賑わい、延べ約 400 名が相談に参加したと推計される。

日本センターのコーディネーターからは、同センターにおいて定員に達する規模でイベントを開催したのは初めてであるとのコメントがあり、日本留学に対するボゴタ市内の学生および保護者の関心の高さが示された。

フェア終了後には、日本センターのディレクターの一人である Betsy Forero 教授との簡単な意見交換の場を設け、國學院大学および筑波大学の教職員を紹介するとともに、各大学の専門分野や、将来的な学生交流の可能性について情報共有を行った。

本会場を日本センターとしたことにより、同センターで日本語・日本文化講座を受講している大学生の参加が多く、日本留学に対して比較的高い関心を有する層に効果的にアプローチできた点は、大きな成果であった。



相談テーブル

②0 ペルー・カトリカ大学（PUCP）向け Study in Japan フェア

日時：11 月 7 日（金）17:00～19:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ペルー・リマ

内容：日本留学の機会紹介および出展大学の紹介

登壇機関等：

- ・ 筑波大学
- ・ 國學院大學
- ・ 国際交流基金リマ事務所
- ・ Study in Japan コーディネーター

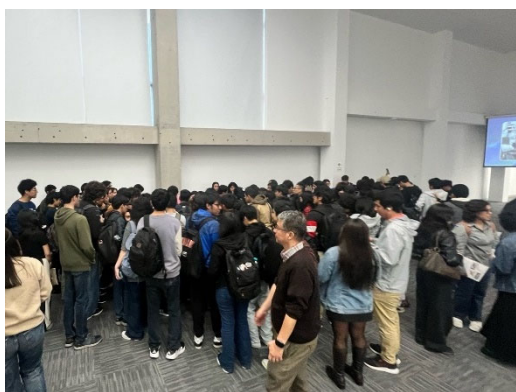
参加者数：プレゼンテーション 130 名／個別相談 約 300 件

本フェアは、ペルー・カトリカ大学（PUCP）社会科学講堂において開催され、冒頭に Study in Japan の概要説明を行った後、個別相談ブースを設置する構成で実施した。

冒頭説明は当初、最大 100 名程度の参加を想定していたが、実際には約 130 名が来場し、追加の座席を設けるとともに、一部参加者は立ち見となる状況であった。説明会終了後には、2 大学の日本の大学教職員と Study in Japan コーディネーター及び学生アルバイトによる個別相談ブースを設け、15 校以上の日本の大学の資料を配布した。

全体として、本イベントは想定を上回る参加者数を集めた点で非常に良好な成果と評価される。来場者数が多かったにもかかわらず、PUCP が提供した会場は十分な広さと快適性を備えており、円滑な運営が可能であった。

また、本イベントには、国際交流基金リマ事務所が初めて参加し、日本語教育に関するオンライン教材や、同基金が実施する文化事業についての情報提供を行った。同機関にとっても、本フェアを通じて日本に関心を持つ学生層へのリーチ拡大が確認され、今後の連携強化に向けて有意義な機会となった。



相談テーブル



Study in Japan コーディネーターによる
プレゼンテーション

② ペルー日系人協会（APJ）Study in Japan フェア（1）

日時：11月8日（土）13:00～18:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ペルー・リマ

内容：日本留学の機会紹介および出展大学の紹介

登壇機関等：

- ・筑波大学
- ・國學院大學
- ・国際交流基金リマ事務所
- ・Study in Japan コーディネーター

参加者数：個別相談 約 250 件

本件は、ペルー日系人協会（APJ）が日本文化週間の一環として毎年主催する行事への、4 回目の参加となったものである。本イベントは当初、例年同様、AELU Matsuri 内での実施が予定されていたが、令和 7 年 10 月 21 日、ペルー政府が首都リマと近隣のカヤオに治安の悪化に伴う非常事態宣言を出し、2 万人を超える来場者を伴うイベントに制限が課されたことから、開催予定日の数週間前に AELU Matsuri が中止となった。

その後、APJ の迅速な対応により、イベント期間中に実施予定であった複数の文化関連行事が APJ 施設内に移管され、Study in Japan の個別相談ブースもその一環として実施することが可能となった。この結果、Study in Japan ブースでは資料配布及び保護者や学生を中心に約 250 件の個別相談が行うことができ、出展大学は広報資料の配布や、来場者からの質問に直接対応する機会を得た。

本フェアには、国際交流基金リマ事務所も参加し、日本語教育に関するオンライン教材や、同事務所が実施する文化事業のスケジュール等を紹介した。学生の参加が多かった点については、同事務所からも高い評価を受けた。

② ペルー日系人協会（APJ） Study in Japan フェア（2）

日時：11月9日（日）13:00～18:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ペルー・リマ

内容：日本側機関によるプレゼンテーションおよび個別相談ブース

参加者：

- | | |
|--------------|------------------------|
| ・筑波大学 | ・ JICA |
| ・國學院大學 | ・ 在ペルー日本国大使館 |
| ・国際交流基金リマ事務所 | ・ PRONABEC（ペルー政府奨学金機関） |
| ・ペルー日本商工会議所 | ・ ペルー日系人協会（APJ） |

・ Study in Japan コーディネーター

参加者数：プレゼンテーション 135 名／個別相談 約 800 件

本イベントは、新型コロナウイルス感染症拡大以降、ペルー日系人協会（APJ）施設において対面形式で実施した 3 回目の留学フェアにあたる。日秘文化会館の施設は 600～800 名規模の収容が可能であり、各機関・大学による個別プレゼンテーションと相談ブースを並行して実施できる点で、大規模イベントに適した会場である。

本フェアでは、在ペルー日本国大使館（文部科学省奨学金の紹介）、国際交流基金（文化事業および日本語教育プログラムの紹介）、PRONABEC（政府系国際奨学金制度の説明）、JICA（技術研修および修士課程奨学金の紹介）、ペルー日本商工会議所（日本留学後の現地就労に関する情報提供）、ならびに APJ（日本語講座の紹介）など、主要な現地関係機関の参加が大きく拡充された。

また、日本からの参加大学である筑波大学および國學院大學に加え、JICA、日本大使館、商工会議所、PRONABEC 等の関係機関によるプレゼンテーションが行われたほか、筑波大学の修了生から、日本留学に関する自身の経験が共有された。これらのプレゼンテーションには、延べ約 135 名が参加した。

同時並行で実施した個別相談ブースには、延べ 800 名を超える来場者が訪れた。来場者は、主としてリマ市内の保護者、中等教育段階の生徒、大学生であり、近郊都市からの参加や、本人に代わって家族が情報収集に訪れるケースも見られた。例えば、リマから約 100km 離れたマラ市在住の姪に代わり、親族が来場し日本留学に関する情報を熱心に収集する事例があり、日本留学への関心の高さを象徴するものといえる。

運営面では、これまでのイベントと比較して、Study in Japan チームと APJ 側との連携が一層円滑となり、特に運営上の細部において改善が見られた。また、事前登録者数は 1,349 名に達し、実来場者数も 800 名超と推計され、前回は上回る参加規模となった。



相談テーブル



JICA によるプレゼンテーション

②③ ラ・フロンテーラ大学 国際週間 Study in Japan 説明会

日時：11月24日（水）11:00～12:00（現地時間）

実施形態：オンライン

内容：日本留学の機会紹介

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：30名

本説明会は、チリ・テムコ（サンティアゴから約600km）に所在するラ・フロンテーラ大学が主催する国際週間の一環として、ハイブリッド形式で開催されたイベントに参加したものである。参加の契機は、日本への留学経験を有する同大学の教員が、在チリ日本国大使館のを通じて招待したことによるものである。ラ・フロンテーラ大学は学生数約11,000名を擁し、QSランキングでは世界1201-1400位、ラテンアメリカ・カリブ地域で53位に位置付けられている。

当日は、在チリ日本国大使館より国費外国人留学生制度に関する説明が行われ、Study in Japan からは、その他の奨学金制度および日本の大学への出願手続きについて情報提供を行った。

本イベントを通じて、ラ・フロンテーラ大学の学生2名から、Study in Japan に対し追加情報の照会が寄せられたほか、修士課程への出願に関する助言を求める問い合わせも確認された。

②④ 中央ペルー大学 国際週間 Study in Japan 説明会

日時：12月13日（土）

実施形態：オンライン

時間：日本時間 6:00～7:30

内容：日本留学の機会紹介

参加者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：317名

本説明会は、ペルー・ワンカヨに所在する中央ペルー大学（Universidad del Centro del Perú）の国際化担当ディレクターである Ana María Huacaychuco 氏からの招待により、同大学の国際週間の一環として実現したものである。ワンカヨはリマの東方約200～300km、アンデス山岳地帯中央部に位置する都市である。同大学は uniRank 2025 において国内32位、世界では4000～5000位に位置付けられており、SCImago Institutions Rankings では獣医学、農学・生物科学、環境科学、社会科学分野に強みを有している。

招待時点において、同大学とは既に在ペルー日本国大使館を通じた接点があり、日本の大学との連携構築に関心を示していたことが背景にある。本イベントはハイブリッド形式で開催され、約317名が参加した。当初予定されていた中国の講演者が参加できなくなったため、Study in Japan の説明会がプログラム上、前倒しで実施されることとなった。

質疑応答は行われなかったものの、リマ市以外の地域に所在する大学との新たな接点を構築できた点において、本活動は有意義であり、Study in Japan の活動範囲拡大につながる前向きな成果と評価できる。

ワンカヨのような人口規模が比較的小さく、現地開催型フェアでのリーチが難しい地域に対しては、今後もオンライン機会を活用し、日本留学に関心を持つ潜在的な学生層へのアプローチを継続的に拡大していくことが望ましい。

②⑤ Study in Japan オンラインフェアプレイベント（南米スペイン語圏対象）

日時：2月20日（金）6:00-7:30（日本時間）

実施形態：オンライン

内容：日本留学の機会に関するプレイベント

登壇者：

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| ・ 在アルゼンチン日本国大使館 | ・ 在ペルー日本国大使館 |
| ・ 在チリ日本国大使館 | ・ 日本在住の南米出身学生 |
| ・ 在コロンビア日本国大使館 | ・ Study in Japan コーディネーター |

参加者数：

- ・ 導入ウェビナーおよび学生ラウンドテーブル：累計 1,327 視聴
- ・ 各国大使館ブース参加者数：
 - コロンビア：43 名
 - ペルー：51 名
 - チリ：46 名
 - アルゼンチン：65 名

本イベントは、南米4か国の日本国大使館および日本在住のスペイン語話者学生の参加により実施された Study in Japan オンライン留学フェアのプレイベントである。

前半では、各大使館が Zoom を用いて国費外国人留学生制度に関するオンライン説明会を実施し、ラテンアメリカの参加者に対して進学に関する指導を行った。本セッションには約 205 名が参加し、円滑に実施された。

続いて、第4回「Study in Japan Connect!」ウェビナーが開催され、日本の大学に在籍する南米出身学生が登壇し、学業および生活に関する経験を共有するとともに、参加者からの質問に対応した。本セッションは計 452 回の視聴を記録した。

本プレイベントは、本事業の特設ウェブサイト上で配信され、大使館ごとの Zoom ルームへのアクセス、導入ウェビナー、学生セッションの視聴機能を一体的に提供した。

全体として、大使館による制度説明および学生による体験共有の双方において一定数の参加があり、日本留学に対する関心の高さが確認された。

②⑥ Study in Japan オンラインフェアイベント（ブラジル対象）

日時：2月21日（土）

実施形態：オンライン

内容：日本留学の機会に関するイベント

登壇者：

- ・日本留学経験者
- ・Study in Japan コーディネーター

視聴者数：447名

※ This webinar was live streamed on Study in Japan Brasil's YouTube channel and is available for watching at any time.

Link: <https://www.youtube.com/watch?v=FDi5pS6dZgM&t=597s>

日本の大学を卒業し、現在日系企業等で就業しているブラジル人元留学生が経験を共有した。本セッションの目的は、卒業後に日本でキャリア形成が可能であることを具体的な成功事例を通じて示すことであった。登壇者は、自身の進路に加え、日本における就職活動のプロセス、企業が求める能力、就職活動において直面した課題等について説明を行った。

②⑦ Study in Japan オンラインフェア

日時：2月27日（金）8:00-11:00（日本時間）

実施形態：オンライン

内容：日本留学の機会の紹介

登壇者：

- | | |
|----------|--------------------------|
| ・北海道大学 | ・法政大学 |
| ・東北大学 | ・山梨学院大学 |
| ・筑波大学 | ・京都先端科学大学 |
| ・東京大学 | ・神戸情報大学院大学 |
| ・東京外国語大学 | ・叡啓大学 |
| ・信州大学 | ・メロス言語学院 |
| ・名古屋大学 | ・日本学生支援機構 |
| ・広島大学 | ・在ブラジル日本国大使館 |
| ・芝浦工業大学 | ・Study in Japan コーディネーター |

資料参加機関

- | | |
|---------|--------|
| ・横浜国立大学 | ・國學院大學 |
| ・鳥取大学 | ・上智大学 |

・関西大学

・立命館アジア太平洋大学

プログラム：

- ・8:00～8:30 セッション1：プラットフォームの説明および日本留学機会の紹介
- ・8:30～11:00 セッション2：大学別相談ブース

本イベントでは、参加者の属性に応じて、スペイン語（607 視聴）およびポルトガル語（358 視聴）による導入ウェビナーをそれぞれ実施した。その後、20 大学（オンライン参加 14 大学、資料提供のみ 6 大学）、1 日本語学校、日本学生支援機構、および在ブラジル日本国大使館の参加のもと、英語によるバーチャル相談ブースを設置した。登録者数は 1,643 名であり、2024 年 2 月に開催された前回フェア（2,251 名）と比較して減少が見られた。一方で、2025 年度は個別相談セッションへの参加率が向上しており、参加の質の面では改善が確認された。

ii. 留学フェアへの参加

令和 7（2025）年度は以下の通り、留学フェア、高校・大学での説明会に参加した。

No.	開催年月日	実施形態	〔開催地〕 イベント名
①	R7.4.24	オンライン	在サンパウロ日本国総領事館との共催オンラインウェビナー（学部生・大学院生向け）（ブラジル対象）
②	R7.4.25	オンライン	在サンパウロ日本国総領事館との共催オンラインウェビナー（高校生向け）（ブラジル対象）
③	R7.4.26	オンライン	在クリチバ日本国総領事館主催ウェビナー（ブラジル対象）
④	R7.4.28	オンライン	日本留学研修員ブラジル OB 会・Bunkyo 青年会主催ウェビナー（ブラジル対象）
⑤	R7.5.18	オンライン	Begin Group 主催 中南米向けオンライン教育フェア（2025 年春）
⑥	R7.5.21	オンライン	3rd UFMG Internationalization Exhibition（ブラジル対象）
⑦	R7.6.11	オンライン	在東京ブラジル総領事館： XIX Online Education fair (close session for schools)（在日ブラジル人対象）
⑧	R7.6.14	オンライン	在東京ブラジル総領事館： XIX Online Education fair (Live stream Q&A on Facebook)（在日ブラジル人対象）
⑨	R7.7.12	オンライン	Study in Japan explanation to students from Tourism course (Instituto Federal de Sao Paulo)（ブラジル対象）
⑩	R7.8.27	対面	〔ブラジル・リオデジャネイロ〕リオデジャネイロ州立大学文学部日本語コース新入生歓迎レセプション

No.	開催年月日	実施形態	〔開催地〕 イベント名
⑪	R7.8.28	対面	〔ブラジル・リオデジャネイロ〕 第5回 Escola Eleva 大学・キャリアフェア
⑫	R7.8.30	対面	〔ブラジル・サンパウロ〕 Colegio Miguel de Cervantes 大学フェア
⑬	R7.9.5	対面	〔ブラジル・ヴァリニョス〕 Colegio Etapa 大学フェア（ヴァリニョス）
⑭	R7.9.6	対面	〔ブラジル・サンパウロ〕 Colegio Etapa 大学フェア（サンパウロ）
⑮	R7.9.21	対面（資料参加）	〔日本・神奈川〕 ABC Japan 教育フェア
⑯	R7.10.8	オンライン	〔ブラジル・リオデジャネイロ〕 Osvaldo Cruz Institute - International Seminars
⑰	R8.1.14	ハイブリッド （オンライン参加）	Koshukai - Asebex（ブラジル対象）
⑱	R8.2.13	対面（資料参加）	II Congress for Japanese Language Teachers in Peru
⑲	R8.3.2	オンライン	4th Symposium of Latin-American Scholars from Japan

① 在サンパウロ日本国総領事館との共催オンラインウェビナー（学部生・大学生院生向け）

② 在サンパウロ日本国総領事館との共催オンラインウェビナー（高校生向け）

日時：4月24日（木）（学部生・大学生院生向け）、4月25日（金）（高校生向け）

実施形態：オンライン

対象地域：ブラジル

内容：在サンパウロ日本国総領事館との共催オンラインウェビナー

（国費外国人留学生（研究留学生／学部生）について）

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：

・4月24日：680名（当日参加者）

・4月25日：573名（当日参加者）

YouTube 視聴者数（2025年12月12日時点）：

・4月24日：1,012名

・4月25日：1,325名

Study in Japan 南米地域は、在サンパウロ日本国総領事館と共催し、国費外国人留学生制度に関するオンラインウェビナーを、令和7年4月24日および25日の2日間にわたり実施した。

4月24日は主に大学院レベル（研究留学生）を対象とした国費外国人留学生（研究留学生）について、4月25日は学部レベルを対象とした国費外国人留学生（学部留学生）について説明を行い、それぞれ制度概要、応募資格、選考プロセス、渡日前後の流れ等について体系的に情報提供を行った。

両日ともに多数の参加があり、当日参加者数は合計1,253名に上った。さらに、ウェビナーはYouTubeでのアーカイブ配信も行われ、令和7年12月12日時点での累計視聴回数は2,337回となっており、当日参加者と合わせた総到達人数は3,590名に達した。オンライン形式およびアーカイブ配信を活用することで、当日参加が困難な層を含め、ブラジル全土に広く情報を届けることができた。

ウェビナーでは、国費外国人留学生制度に関する基礎的な説明に加え、出願時の注意点やよくある質問への対応も行われ、参加者からは具体的な応募条件や進学先選択に関する質問が多く寄せられた。特に、日本留学への関心が高い学生層に対し、正確かつ公式な情報を直接発信できた点は、大きな成果であった。

本取組は、在サンパウロ日本国総領事館との連携により高い信頼性を確保しつつ、日本留学および国費外国人留学生制度の認知向上を図る有効な機会となった。南米地域における日本留学希望者の裾野拡大および質の高い応募者の獲得に寄与する取組として、今後も継続的な実施が期待される。

③ 在クリチバ日本国総領事館主催ウェビナー

日時：2025年4月26日（土）

実施形態：オンライン対象地域：ブラジル

内容：在クリチバ日本国総領事館主催 ウェビナー

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：YouTube 視聴回数 202名

在クリチバ日本国総領事館が主催するオンラインウェビナーに、Study in Japan 南米地域として参加した。

本ウェビナーは、日本留学に関心を有する学生や若者を主な対象として開催され、日本の高等教育制度や日本留学の概要について情報提供が行われた。Study in Japan コーディネーターより、日本の大学の特徴、日本留学の進学ルート、奨学金制度の概要等について説明を行い、日本留学を検討する上で必要となる基礎的な情報を発信した。

本ウェビナーは YouTube を通じて配信され、令和 7 年 12 月 12 日時点で 191 名の視聴が確認されており、当日参加に加えてアーカイブ視聴を通じた継続的な情報提供が行われた。オンライン形式を活用することで、地理的制約を受けることなく、ブラジル国内の幅広い層に対して日本留学に関する情報を届けることができた点は有意義であった。

本取組は、在クリチバ日本国総領事館との連携のもと、日本留学および Study in Japan の取組を南部ブラジル地域に周知する機会となり、今後の日本留学希望者の裾野拡大につながる有益な活動であった。

④ 日本留学研修員ブラジル OB 会と Bunkyo 青年が主催するウェビナー

日時：2025 年 4 月 28 日（月）

実施形態：オンライン対象地域：ブラジル

内容：日本留学研修員ブラジル OB 会と BUNKYO 青年会 が主催するウェビナーに参加

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：9 名

Study in Japan 南米地域は、日本留学研修員ブラジル OB 会（ASEBEX）と、ブラジル日本文化福祉協会（通称：文協）に所属する青年組織である BUNKYO 青年会（Seinen Bunkyo Committee）共催のウェビナーにオンラインで参加した。

BUNKYO 青年会は、ブラジル日系社会における次世代のリーダー育成と日本文化の継承を目的として活動する青年団体であり、文協の複数の委員会のひとつとしてスポーツや講演会等を通じた交流活動を行っている。日系社会全体の活性化と文化発信の一翼を担い、日本文化や日伯交流に関心を持つ若い世代の参加を促す役割を果たしている。文協は長年にわたりブラジルにおける日本文化の普及と日系社会の支援を行っており、その中で青年会が担う役割は、将来的な世代継承の観点からも重要視されている。

本ウェビナーは、日本留学や進学に関する一般的な情報提供を目的として実施され、Study in Japan コーディネーターが登壇し、日本の大学制度、日本留学に関する奨学金制度の概要、日本留学のメリット等について説明を行った。参加者数は 9 名と少数であったが、質問や意見交換の時間も設けられ、個々の関心に応じた丁寧な情報提供が行われた。

本取組は、日系社会・青年団体を通じた日本留学情報の発信という観点から、南米地域における日本留学支援のネットワークを拡充する有意義な機会となった。オンライン形式により地理的制約を軽減しつつ、参加者一人ひとりにきめ細かい情報提供を行うことができた点は評価に値する。また、今後も日系団体や若年層向けのコミュニティと協働し、日本留学への理解と関心を深める活動を継続していくことが期待される。

⑤ Begin Group 主催 中南米向けオンライン教育フェア（2025 年春）

日時：5月18日（水）

実施形態：オンライン

時間：日本時間 5:00～9:00

内容：2025 年春 中南米向けオンライン教育フェア

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：個別相談 64 件（スペイン語圏諸国〔アルゼンチン、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、グアテマラ、メキシコ、ペルー〕からの参加）

Begin Group は、これまでに京都先端科学大学、九州大学（J-MENA 事業）および筑波大学（ロシア・CIS 地域事業）など、日本の教育機関と連携した実績を有する企業である。南米地域事業としては、これまでも Begin Group が主催するイベントへの参加実績がある。本年度は、スペイン語圏を対象としたオンラインイベントへの無償参加の招待を受け、参加することになった。

本イベントでは、日本留学の機会を中心とした Study in Japan に関する 15 分間のプレゼンテーションを実施した。あわせて個別相談ブースを設け、合計 64 名の参加者から相談を受けた。イベント全体の開催時間は、日本時間 5 時から 9 時までの計 4 時間であった。

⑥ 3rd UFMG Internationalization Exhibition

日時：2025 年 5 月 21 日（水）

実施形態：オンライン

対象地域：ブラジル

内容：3rd UFMG Internationalization Exhibition

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：YouTube 視聴回数 335 名（2026 年 3 月 31 日時点）

ブラジル・ミナスジェライス連邦大学（UFMG）が主催する「3rd UFMG Internationalization Exhibition」に、Study in Japan 南米地域としてオンライン参加した。

本イベントは、UFMG の学生および教職員を主な対象として、海外大学・研究機関との国際交流や留学機会を紹介することを目的に開催された国際化イベントである。Study in Japan コーディネーターが登壇し、日本の大学および高等教育制度の概要、日本留学の特徴や魅力、奨学金制度等について情報提供を行った。

本展示会は YouTube を通じて配信され、2025 年 12 月 12 日時点で 325 名の視聴が確認されている。オンライン形式により、学内外の幅広い参加者に対して日本留学に関する情報を発信することができ、日本での留学や研究活動に関心を有する層への効果的な周知の機会となった。

本取組は、ブラジル有数の国立大学における国際化関連イベントを通じて、日本の高等教育および Study in Japan の取組を紹介する機会となり、今後の学生交流や留学生受入れ促進につながる有意義な活動であった。

⑦ 在東京ブラジル総領事館: XIX Online Education fair (close session for schools)

日時：2025 年 6 月 11 日（水）

実施形態：オンライン対象地域：日本

内容：在東京ブラジル総領事館 主催

「XIX Online Education Fair（関東地域ブラジル人学校向けクローズドセッション）」

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：800 名

在日ブラジル人向けに在東京ブラジル総領事館が主催する「XIX Online Education Fair（関東地域ブラジル人学校向けクローズドセッション）」に、Study in Japan 南米地域としてオンライン参加した。

本イベントは、日本国内、特に関東地域に所在するブラジル人学校の生徒および教育関係者を主な対象として実施されたクローズド形式のオンライン教育フェアであり、ブラジル系コミュニティにおける進学および教育機会に関する情報提供を目的として開催された。

Study in Japan コーディネーターが登壇し、日本の大学および高等教育制度の概要、日本で進学する際の選択肢、日本留学の特徴や魅力について説明を行った。特に、日本在住のブラジル人学校生徒にとって身近な進学先としての日本の大学を紹介することで、将来的な進学の可能性について理解を深める機会となった。

本セッションには約 800 名が参加し、クローズドイベントでありながら大規模な参加者数を記録した。ブラジル人学校を通じた一斉参加という形式により、特定の対象層に対して効率的かつ集中的に情報発信を行うことができた点は大きな成果であった。

本取組は、日本国内に居住するブラジル系若年層に対し、日本留学および日本の高等教育の魅力を周知する重要な機会となり、今後の進学支援および留学生受入れ促進につながる有意義な活動であった。

⑧ 在東京ブラジル総領事館: XIX Online Education fair (Live stream Q&A on Facebook)

日時：2025 年 6 月 14 日（土）

実施形態：オンライン対象地域：日本

内容：在東京ブラジル総領事館 主催

「XIX Online Education Fair（Facebook Live Q&A セッション）」

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：43 名（YouTube 視聴回数）

在日ブラジル人向けに、在東京ブラジル総領事館が主催する「XIX Online Education Fair」の一環として実施された、Facebook ライブ配信による Q&A セッションに、Study in Japan 南米地域としてオンライン参加した。

本セッションは、前日に実施された同フェアのクローズドセッションを補完する位置付けとして開催され、日本留学や日本での進学に関心を有する生徒・保護者等を対象に、双方向での質疑応答を目的とした公開形式のオンラインイベントであった。Study in Japan コーディネーターが登壇し、日本の大学制度、日本での進学ルート、奨学金制度の概要等について説明を行うとともに、参加者から寄せられた質問に対して個別に回答を行った。

本セッションは Facebook ライブとして配信され、その後 YouTube 上でアーカイブ公開されており、2025 年 12 月 12 日時点で 33 名の視聴が確認されている。参加者数は限定的であったものの、関心の高い層を対象とした質疑応答形式により、個別の状況に即した情報提供が可能となり、参加者の理解促進につながった。

本取組は、在東京ブラジル総領事館主催イベントのフォローアップとして、日本留学に関する疑問点を解消する機会を提供するとともに、日本国内に居住するブラジル系コミュニティへの継続的な情報発信の一環として有意義な活動であった。

⑨ Study in Japan explanation to students from Tourism course (Instituto Federal de Sao Paulo)

日時：2025 年 7 月 12 日（土）

実施形態：資料参加（動画提供）開催地：ブラジル・サンパウロ

内容：Instituto Federal de São Paulo 観光コース学生向け

Study in Japan 説明会

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：38 名

ブラジル・サンパウロ市に所在する Instituto Federal de São Paulo (IFSP) の観光コースに在籍する学生を対象とした説明会に、Study in Japan 南米地域として参加した。

本説明会は、同時期に開催されていた「Festival do Japão」と日程が重複したため、Study in Japan コーディネーターが日本留学に関するプレゼンテーションを事前に収録し、その動画を提供する形式で参加した。提供した動画では、日本の大学制度の概要、日本留学の特徴や魅力、観光・ホスピタリティ分野に関連する学修・進学の可能性等について体系的に説明を行った。

当日は、観光分野に関心を持つ学生 38 名が当該プレゼンテーションを視聴し、日本留学を将来の進路選択の一つとして検討するための基礎的な情報提供を行うことができた。現地での対面

実施が困難な状況下においても、プレゼンテーション動画を活用することで、対象学生に対する日本留学情報の提供を確実に行うことができた点は有意義であった。

本取組は、ブラジルの高等教育機関に在籍する専門分野志向の学生に対し、日本留学の具体的な情報を届ける機会となり、今後の分野別留学促進や大学間交流の可能性を広げる活動として評価できる。

⑩ リオデジャネイロ州立大学文学部日本語コース新入生歓迎レセプション

日時：8月27日 13:00～18:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ブラジル・リオデジャネイロ

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者：30名（リオデジャネイロ州立大学学生）

リオデジャネイロ州立大学文学部のキタハラ高野聡美准教授より、日本語学科新入生歓迎式典への出席および Study in Japan プロジェクトを紹介する短時間のプレゼンテーション実施の依頼を受けた。急な依頼であったため、プレゼンテーションはプログラムの最終盤に、イベント開催直前に組み込まれる形で実施された。式典においては、学部課程の授業内容およびスケジュール、日本の大学（東京外国語大学、金沢大学、関西学院大学）への交換留学制度について説明を行った。Poliana Arantes 教授（国際協力局長顧問）は、本取り組みを歓迎するとともに、リオデジャネイロ州立大学が日本の大学との新たな連携に前向きである姿勢を示した。また、文学部長である Janaina Cardoso 教授は、東京外国語大学とのダブル・ディグリープログラムの重要性を強調し、日本語コースが文学部内で最も需要の高いコースであると述べた。同プログラムは、両大学の日本語専攻およびポルトガル語専攻の学部生が交換留学を通じて双方の大学で単位を取得し、二重学位を得て卒業できる制度である。開会の辞では、高橋慶介領事が挨拶を行い、Cultural Advisor の Gabriela Yussa 氏が文部科学省国費外国人留学生奨学金について説明した。東京外国語大学卒業生である Kotomi Matsumoto 副領事は、在学中にリオデジャネイロ州立大学へ交換留学した際の体験を紹介した。キタハラ准教授に代わりホスト役を務めた Elisa Massae 教授は、文学・日本語プログラムの概要を説明した。さらに、東京外国語大学の現地担当者である Leonardo Brescia 氏より、東京外国語大学、金沢大学および関西学院大学の3大学への学部生向けサンドイッチプログラムが紹介された。同氏は、リオデジャネイロ州立大学とこれらの日本の大学との間の連絡調整役として、学生の申請管理および学生対応を担っている。セッション2では、東京外国語大学大学院修士課程在籍の学生が、リオデジャネイロ州立大学での交換留学体験について発表した。続いて、ブラジル人女子学生5名が、金沢大学、関西学院大学および東京外国語大学での交換留学経験を共有した。最後に、本学担当者が Study in Japan プロジェクトについて発表を行った。本イベントを通じて、高橋慶介領事と名刺交換を行い、リオ

デジャネイロ州立大学文学部日本語コースにおける学部生向け短期留学プログラム（最長 1 年間）に関する情報を得ることができた。Elisa Massae Sasaki 教授によれば、日本語コースに入学する多くの学生は、入学時点ですでに日本の大学への短期交換留学を視野に入れているという。Leonardo Brescia 氏は、日本語コースからは毎年約 10 名の学生が日本へ留学していると述べ、本セッションを締めくくった。

⑪ 第 5 回 Escola Eleva 大学・キャリアフェア

日時：8 月 28 日（木）9:00-12:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ブラジル・リオデジャネイロ

内容：第 5 回 Escola Eleva 大学およびキャリアフェア

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：39 名（主に高校生、保護者は少ない）

Escola Eleva は、ブラジルの学生が世界各国の大学への進学を目指すための IB（国際バカロレア）カリキュラムを提供する私立学校である。2025 年 5 月に、同校のスクールカウンセラーである Maryana Rodrigues 氏より、日本の大学への出願手続きに関する照会を受け、以降、継続的に情報交換を行ってきた。その結果、8 月 26 日（Urca 校）および 28 日（Barra da Tijuca 校）に開催された説明会への招待を受け、スケジュールの都合上、Barra da Tijuca 校の説明会に参加した。

Rodrigues 氏によれば、日本で開催された AIMO（Asia International Mathematical Olympiad）に同校から 12 名の生徒が参加し、そのうち 10 名がメダルを獲得したという。参加生徒の一人は、卒業後の日本留学に強い関心を示しており、本イベントにおいて本人および同席していた母親と直接意見交換を行った。母親からは、日本がまだ馴染みの薄い進学先であることに対する不安が示された。

当日は 9 時から 9 時 30 分に日本留学に関するプレゼンテーションを実施したが、米国留学およびイタリア留学の説明会と同時間帯であったため、参加者は学生 4 名、保護者 2 名の計 6 名にとどまった。一方で、米国留学セッションに参加していた保護者が後に Study in Japan ブースを訪れ、個別相談につながるケースも見られた。本フェアには、ブラジル、米国、英国、オーストラリア、カナダ、欧州諸国から計 60 の大学・教育機関が参加した。

Study in Japan ブースには 32 名が来場し、その大半は高校生であった。IB ディプロマが日本の大学で認められるかという質問が多く寄せられ、関心分野としては医学が最も高く、次いで工学および法学が続いた。また、日本の大学の学費が欧米諸国と比較して大幅に低い点に対し、来場者から驚きの声が聞かれた。

イベント終了後には、Urca 校のスクールカウンセラーである Thais Zorron 氏と短時間の意見交換を行った。同氏は、米国の政治情勢を背景に、保護者が米国留学に不安を抱いている現状を指摘し、「今こそアジアの大学をブラジルで積極的に紹介すべき時期である」と述べた。また、日本の大学へのカウンセラー訪問に強い関心を示したため、岡山大学 IB 推進室（室長：マハムド・サビナ准教授）の連絡先を共有した。

日本の大学が Escola Eleva のフェアに参加するのは今回が初めてであったが、Rodrigues 氏および Zorron 氏の両名は、日本の大学に限定したフェアの開催に強い期待を示していた。

⑫ 第 3 回 Colegio Miguel de Cervantes 大学フェア

日時：8 月 30 日（土）9:00-12:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ブラジル・サンパウロ

内容：第 3 回 大学フェア

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：55 名（主に高校生、保護者は少ない）

Colegio Miguel de Cervantes は、上流階級の居住地域であるサンパウロ市 Morumbi 地区に所在する私立学校である。本フェアは土曜日に一般公開で開催され、Sao Bernardo do Campo 市内の私立学校および公立学校の生徒が来場し、日本留学に関する相談が行われた。その結果、多様な背景を持つ来場者が集まった。主催者でありスクールカウンセラーの Cibele Alonso 氏によれば、公立学校でスペイン語を教える教員にも参加を呼びかけ、生徒の来場を促したとのことである。校舎は大規模かつ設備が充実しており、Escola Eleva 校と類似した印象を受けた。

本フェアにおいても日本留学に関するプレゼンテーションの依頼を受けたが、Education USA、ポルトガル留学、スペイン留学の各プログラムと同時間帯での実施となった。それにもかかわらず、学生 9 名、保護者 3 名の計 12 名が参加し、終了後にはブースにおいて個別相談に応じることができた。

京都先端科学大学（KUAS）の担当者も本フェアに参加し、ブース出展した。来場者からは日本の医学部に関する質問が最も多く、次いで工学部、法学部、経営学部、自然科学系分野（物理学・化学）への関心が示された。一方で、国際関係論に対する関心は限定的であった。ブラジルにおいては、医学および法学が伝統的に上流階級向けの専攻と位置付けられているため、説明に際しては、日本の医学部教育が主として日本語で行われること、日本で医師資格を取得するには国家試験に合格する必要がある、そのためにはほぼネイティブレベルの日本語能力が求められることを明確に説明した。

本フェアには 120 以上の大学・教育機関が参加し、同校が有する海外大学との強固なネットワークと高い国際的評価が示された。ハンガリー、スウェーデン、イスラエルなど多様な国・地

域の大学も参加していた。フェア終了後には、関係者に対し、学校カフェテリアにて昼食が提供された。

⑬ Colegio Etapa 大学フェア（ヴァリニョス）

日時：9月5日（金）14:00-17:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ブラジル・ヴァリニョス

内容：Etapa 大学フェア 2025

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：51 名（主に高校生と中学生、保護者は少ない）

Etapa Valinhos 校で開催された大学フェアは、Campinas、Itatiba、Jundiai、Vinhedo など近隣都市の学生にも開放され、参加者層が広がった。学校側はイベント専用ウェブサイトを作成し、事前登録制を採用するとともに、TV Globo および大手ニュースサイト G1 を通じた広報を実施した。

本フェアには京都先端科学大学および在サンパウロ日本国総領事館の担当者も参加し、日本関連ブースが集約されたことで多くの来場者を集めた。全体では、75 の大学・教育機関が参加した。

来場者の関心分野は、Escola Eleva 校および Colegio Miguel de Cervantes 校でのフェアと同様、医学、法学、ビジネス、工学、コンピューターサイエンスが中心であった。

⑭ Colegio Etapa 大学フェア（サンパウロ）

日時：9月6日（土）9:00-12:00（現地時間）

実施形態：対面

開催地：ブラジル・サンパウロ

内容：Etapa 大学フェア 2025

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：70 名以上（高校生と中学生、保護者の数が多い）

Etapa サンパウロ校の大学フェアは、地下鉄駅およびバスターミナルに近いアクセスの良いメインキャンパスで実施された。立地の良さに加え、事前の強力な広報活動により、多くの来場者を集めた。3 時間の開催時間中、高校生を中心に 70 名以上の参加者と面談することができ、多くの学生が保護者同伴で来場したことから、保護者の関心や日本の大学に対する期待を把握する有意義な機会となった。本フェアには、在サンパウロ日本国総領事館および京都先端科学大学も参加した。Stella Mie Tanaka 氏は、Etapa 校に在籍する日系ブラジル人学生の多さや教育の

質、日本の大学への進学実績を背景に、在サンパウロ日本国総領事館が同校のフェアに継続的に参加している旨を説明した。Colegio Etapa は、CNN ブラジルおよび公式 Instagram アカウントを通じて本フェアを広報し、その結果、私立学校主催の留学フェアの中でも、本イベントにおける Study in Japan ブースが最も多くの来場者を集めた。フェア期間中、在サンパウロ日本国総領事館および京都先端科学大学のブースも終始賑わい、日本からの出展が多かったことが来場者の関心を高める要因となった。また、文部科学省国費外国人留学生奨学金試験に不合格となった学生からの相談も受け、各自の関心分野に応じたコースや大学を紹介するとともに、直接入学の選択肢について説明を行った。

⑮ ABC Japan 教育フェア

日時：2025 年 9 月 21 日（日）10:00～17:00

実施形態：対面（資料参加）

開催地：日本（神奈川県）

会場：神奈川県立かながわ労働プラザ 3 階 多目的ホール

内容：特定非営利活動法人 ABC ジャパン主催

「外国につながる中・高校生・若者のための 教育フェア 2025」配布部数：約 100 部

特定非営利活動法人 ABC ジャパンが主催する「外国につながる中・高校生・若者のための教育フェア 2025」に、Study in Japan 南米地域として資料参加した。

ABC ジャパンは、日本国内に居住する外国人、とりわけ日系ブラジル人を中心とした外国ルーツを持つ子ども・若者に対し、学習支援やキャリア形成支援を行っている団体である。Study in Japan 南米地域の取組においても、日系ブラジル人および南米出身者を対象とした日本留学支援を重要な柱としていることから、同団体が主催する本教育フェアへの参加は、対象層への効果的な情報提供の機会であると判断した。

本フェアは、在日外国人および外国につながる中学生・高校生・若者とその保護者、学校・教育関係者等を主な対象として開催され、日本在住で中学・高校に通う外国ルーツの子どもや、日本生まれで保護者が外国出身の子ども等も来場するイベントであった。留学生を対象としたフェアではなく、日本国内で進学を検討する外国ルーツの若者に向けた教育支援を目的としている点が特徴である。

Study in Japan 南米地域は、当日現地でのブース出展や登壇は行わず、日本の大学に関する情報を掲載した Study in Japan 南米地域作成の A5 サイズ小冊子（チラシ）を約 100 部送付し、資料配布を通じて日本の大学進学や高等教育の選択肢について周知を行った。資料には、日本の大学制度の概要や進学の流れ、日本の高等教育の魅力が掲載されており、日本国内に居住する外国ルーツの若者に対して、日本の大学を進学先の一つとして認識してもらうことを目的としている。

本資料参加を通じ、直接的な対面对応は行わなかったものの、対象層に対して日本の大学に関する基礎情報を提供し、日本留学および日本の高等教育への関心喚起を図る機会となった。今後も、在日外国人および南米ルーツの若者を対象とした同様の教育イベントを通じて、Study in Japan の取組を継続的に周知していくことが重要である。

⑩ Oswaldo Cruz Institute - International Seminars

日時：2025 年 10 月 8 日（水）

実施形態：オンライン

内容：Oswaldo Cruz Institute（IOC）主催 国際セミナー

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：12 名

ブラジル国立オズワルド・クルス財団（Fiocruz）傘下のオズワルド・クルス研究所（IOC）が主催する国際セミナー「Oswaldo Cruz Institute – International Seminars（第 4 回）」に、Study in Japan 南米地域としてオンライン参加した。

IOC は、感染症研究や公衆衛生分野を中心に国際的に高い評価を受けるブラジル有数の研究機関であり、本国際セミナーは、海外の研究者・教育機関との学術交流を目的として定期的に開催されている。今回のセミナーでは、生命科学・医学・公衆衛生分野に関する研究テーマを中心に発表が行われ、参加者との間で活発な意見交換が行われた。

本セミナーにおいて Study in Japan 南米地域は、日本の大学および研究機関における教育・研究環境、日本留学制度の概要について紹介を行った。特に、日本での研究留学や大学院進学に関心を有する参加者に対し、国費外国人留学生制度を含む奨学金制度や、日本の研究環境の特色について情報提供を行い、具体的な進学ルートに関する質問も寄せられた。

当日はオンライン形式で 12 名が参加し、規模は限定的であったものの、研究志向の高い参加者を対象に、日本留学および日本の研究・教育の魅力を直接発信することができた点で有意義な機会となった。

本国際セミナーへの参加は、南米地域における研究者・大学院生層への Study in Japan の周知および将来的な研究交流・留学生受入れ促進につながる取組として、一定の成果を得たものと評価できる。

⑪ Koshukai - Asebex

日時：2026 年 1 月 14 日（水）21:00-21:50（現地時間）

実施形態：ハイブリッド（オンライン参加）開催地：ブラジル

内容：日本留学研修員ブラジル OB 会（ASEBEX）が主催する「KOSHUKAI」ウェビナー

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：54 名

日本留学研修員ブラジル OB 会（ASEBEX）が主催する日本留学準備セミナー「KOSHUKAI 2026」に、Study in Japan 南米地域としてオンライン参加した。

ASEBEX は 1991 年の設立以来、日本への留学および国際交流の機会を広く周知することを目的として、継続的に事業を展開してきた団体である。「KOSHUKAI」は、同会の主要な年間事業の一つとして実施されている 1 か月間の日本留学準備セミナーであり、将来日本への留学を志す学生等を対象に、奨学金制度の解説や元奨学生との意見交換・交流を通じて、渡日前の準備を包括的に支援することを目的としている。

本セミナーでは、日本のマナー、日本の歴史・地理、キャリア形成といった多様なテーマに関する講義に加え、元奨学生によるパネルディスカッションが行われ、日本での留学生活や奨学金制度に関する実践的な情報が提供された。また、国費留学（研究留学・研修留学）をはじめ、MEXT、JICA、自治体奨学金、国際交流基金、日本財団等、さまざまな制度を通じて渡日を予定している将来の奨学生同士が交流できる機会が設けられており、日本留学に対する意欲の高い参加者が集う場となっていた。

本ウェビナーの対象者は、高校生、大学生、大学院生、保護者、日本留学に関心を有する一般の方々と幅広く、日本留学に関する基礎情報から具体的な進学・準備に関する相談まで、多様なニーズに対応した内容であった。日本留学に高い関心を有する層に対し、体系的かつ信頼性の高い情報発信が行われている点から、Study in Japan 南米地域の取組を周知するうえでも極めて有意義な機会であった。

なお、本ウェビナーは ASEBEX の公式イベントページおよび Instagram アカウントを通じて広報が行われており、オンライン形式である利点を生かし、ブラジル国内外から幅広い参加が見られた。今後も同様の機会を通じて、日本留学に関する正確かつ実践的な情報提供を継続していくことの重要性を再認識する機会となった。

⑱ II Congress for Japanese Language Teachers in Peru

日時：2 月 13 日（金）

実施形態：対面（資料参加）

内容：日本留学の機会に関するプレゼンテーション

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：28 名

本件は、国際交流基金リマ日本文化センターおよびペルー日系人協会日本語普及部門が主催したイベントである。

本イベントには、リマ、クスコ、チクラヨ、タクナ、トルヒーリョから計 28 名の日本語教師が参加し、日本語教育に従事する教員の専門性向上および教育関係者間のネットワーク強化を目的として実施された。

主催者からの依頼により、「Study in Japan」は、日本留学の機会、特に日本語教師向けのプログラムに焦点を当てた 15 分間の事前収録ビデオプレゼンテーションを作成し、3 日間の会期最終日に配信した。

今後の同種イベントにおいても継続的な連携が期待される。現時点で具体的な要請はないものの、日本国内の教育機関や専門家と参加教員との接点を強化する方策について、今後検討することが望ましい。

⑭ 4th Symposium of Latin-American Scholars from Japan

日時：3 月 2 日（月）1:00-3:00（日本時間）

実施形態：事前収録

内容：日本留学の機会に関するプレゼンテーション

登壇者：Study in Japan コーディネーター

参加者数：約 150 名

本イベントは、コスタリカ元国費留学生協会が主催し、スペイン語圏およびポルトガル語圏の中南米国費留学生同窓会と連携して実施されたオンラインイベントである。

「Study in Japan」は招待を受け、日本留学の機会、利用可能な奨学金制度、およびオンライン支援資料についてのプレゼンテーションを行い、在コスタリカ日本国大使館による情報提供を補完した。

当日は約 150 名が参加し、学部・大学院課程の出願手続きや要件に関する幅広い質問が寄せられた。主な質問内容は以下のとおりである。

- ・必要 GPA 基準
- ・日本語学習
- ・ビザ申請手続き
- ・試験対策用教材
- ・指導教員の探し方および大学・プログラムの検索方法
- ・研究計画書の作成方法

本イベントへの参加は、日本留学に対する関心の高さを示すとともに、多様な媒体・形式を通じて正確かつ分かりやすい情報発信を継続する必要性を示唆するものである。

また、今後の展開として、同窓会組織の参画を 2 月実施のオンラインフェアに正式に組み込むことにより、連携強化およびアウトリーチの拡大を図ることが有効と考えられる。

5. 令和7年度アンケート結果分析

(1) オンラインフェア

i. 背景：対象南米5か国（ブラジル、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ペルー）の動向

UNESCO Institute for Statistics データブラウザ¹によると、2023年時点における海外の高等教育機関に在籍する学生数は、対象5か国（ブラジル、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ペルー）すべてにおいて長期的な増加傾向を示している。2000年以降、COVID-19パンデミックの影響を受けた時期を経てもなお、海外進学者数は増加を続けており、これらの国々が引き続き海外留学志向の強い地域であることが確認される（図1参照）。

UIS データブラウザは、アルゼンチンおよびチリが国際学生の受入国としての性格も有していることを示している。図2はペルーを除く各国における国際学生の純流入（ネットフロー）を示している。なお、値がマイナスの場合は「送出国」、すなわち受入数よりも海外へ送り出す学生数が多いことを意味する。この点において、ブラジルおよびコロンビアは地域内でも特に大きなマイナス値を示しており、高等教育を目的とした海外留学志向が強い国であることが確認される。

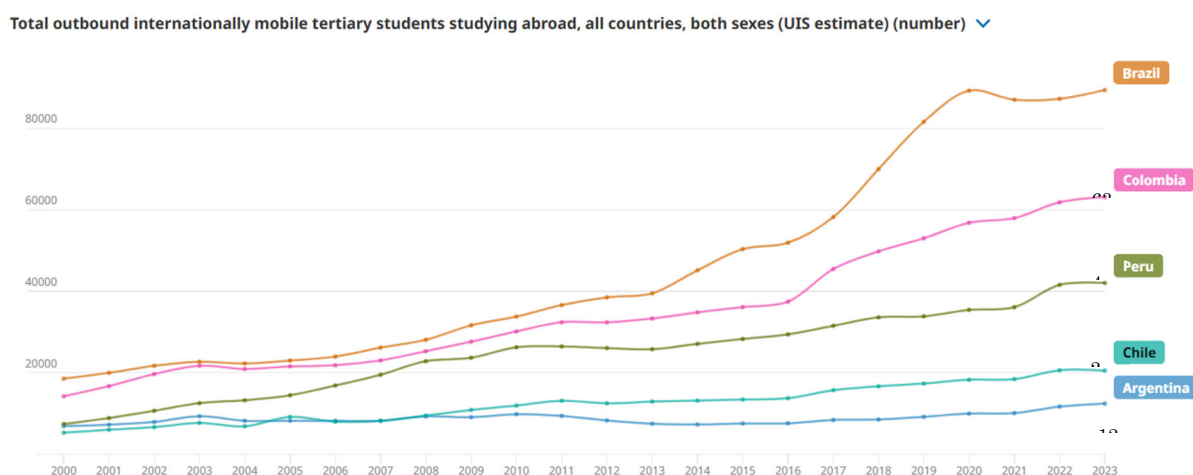


図1 各国における高等教育課程の海外留学学生数（出典：UNESCO UIS Data）

¹ UNESCO Institute for Statistics (UIS) Data Browser: <https://databrowser.uis.unesco.org/>

Net flow of internationally mobile students (inbound - outbound), both sexes (UIS estimate) (number) ▾

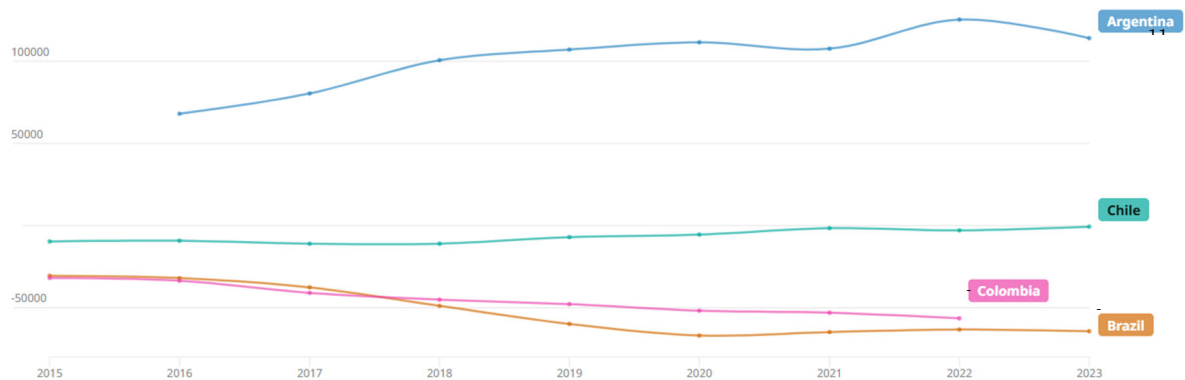


図2 4つの対象国（アルゼンチン、チリ、コロンビア、ブラジル）への留学生の純流入
（出典：UNESCO UIS Data）

この傾向は、QS の中南米に関する報告²によっても裏付けられている。同報告によれば、アルゼンチンに留学する外国人学生の約 60%は、ブラジル、ペルー、エクアドル、コロンビア出身であり、主として学士および大学院レベルの学位取得を目的としている。こうした人の流れには、欧米と比較して安価な学費、地理的近接性、渡航費の低さ、言語および文化の共通性、さらに MERCOSUR（南米南部共同市場。財、サービス、生産要素の自由な移動を目的とした南米の地域統合枠組み）の居住制度が寄与している。

近年では、アルゼンチンに続く留学先として、米国、英国、カナダ、オーストラリアといった主要 4 か国における費用上昇や受入政策の厳格化を背景に、ラテンアメリカの学生は欧州諸国を域外留学先として選択する傾向が強まっている（Global Student Flows 2026 – Latin America）。

また、Anne-Maree Walker は、ブラジルの海外留学生数は UNESCO の統計よりも実際には多い可能性を指摘している。³同統計は高等教育機関に在籍する学生に限定されているため、海外の語学学校に在籍する学生を含めると、ブラジル人留学生は 11 万人を超える可能性があると言われる。この傾向は、特にコロンビアやペルーなど、送出学生数の多い他のラテンアメリカ諸国においても同様に見られる可能性が高い。

ii. オンラインフェア参加登録者アンケート結果の概要

² QS Quacquarelli Symonds (2026). Global Students Flows – Latin America.

³ Walker, Anne-Maree (2024). Inbound Insight: Brazil. URL: <https://gslglobal.com/2024/09/14/inbound-insight-brazil/>

本報告では令和7年度（2025年2月20日、21日、27日）に実施したオンラインイベントにおいて収集したデータを基に分析を行う。特に本事業の重点対象国であるアルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、ペルーの5か国に焦点を当てる。これらの国からの参加登録者は1,414名であり、全体の登録者数1,643名のうち86%を占めた（参加国数：24か国）。

本事業における参加登録データによれば、日本留学への関心は女性が51%とやや高く、男性（47%）を上回っている。志望学位としては修士課程（19%）および学士課程（22%）が中心であり、これに日本語学習（14%）、短期プログラム（10%）が続く。分野別では、工学（24%）が最も高い関心を集め、次いで人文・社会科学（19%）芸術・デザイン（18%）、がほぼ同水準で続いている。

iii. オンラインフェアの参加者プロフィール

オンラインフェアの参加者プロフィールを見ると、地域別ではスペイン語圏の登録者が多数を占めたが、国別ではブラジルが34%と最多で、次いでペルー（16%）、チリ（14%）が続いた。性別構成は、女性51%、男性47%、「その他」または無回答が2%であった。年齢層は、16～20歳が32%（564名）、21～25歳も同様に32%（567名）と、若年層が中心であった。主な職業区分では、学部学生が40%、企業勤務者が23%、中等教育段階の学生が13%であった。企業勤務者の内訳を見ると、26～30歳が37%と最も多く、次いで21～25歳（27%）、31～35歳（22%）、36～40歳（4%）であり、大学既卒者が大学院進学を検討しているケースや、子どもの進学に関する情報収集を行う保護者層が含まれていると考えられる（今後は年齢と職業のクロス分析により、就労中の学部学生の割合を把握することが望ましい）。大学院生（修士・博士）は全体の4%にとどまった。

参加登録者の最終学歴では、52%が学士号取得者または大学在学中であり、37%が中等教育修了または在学中であった。

希望学位（複数回答）では、大学院レベルへの関心が全体の34%を占め、その内訳は修士課程19%、博士課程6%、サンドイッチプログラム4%、MBA3%、ポスドク1%であった。

学士課程への関心は全体の35%を占め、その内訳は学士課程22%、専門職大学・専修学校（Professional school）9%、サンドイッチプログラム4%であった。また、高等専門学校への関心は5%、日本の高校への進学希望は1%であった。さらに、課外的なプログラムとして、短期・サマープログラム（10%）および日本語コース（14%）にも一定の関心が見られた。

以下では、対象5か国（アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、ペルー）について、主要な関心分野および参加者の属性傾向を整理する。

a. アルゼンチン（回答数：279）（図3参照）

- 工学・技術：男性参加者において関心が高く、特に21～25歳および26～30歳層で顕著
- 人文科学：女性参加者において関心が高く、特に26～30歳および31～35歳層で顕著

- 芸術・デザイン：女性は 16～20 歳および 21～25 歳、男性は 16～20 歳および 26～30 歳層で関心が見られる

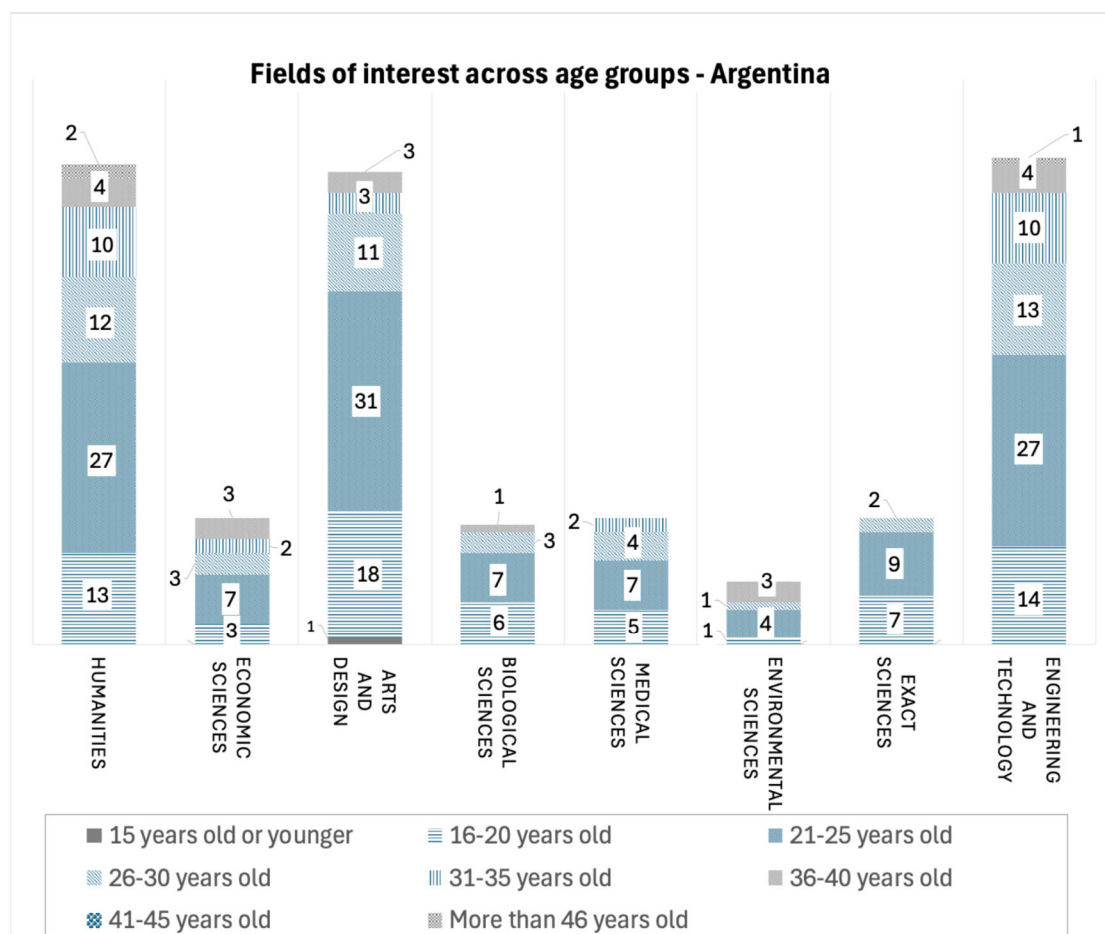


図 3 対象 5 か国別：関心分野および属性傾向-アルゼンチン

b. ブラジル（回答数：1,012）（図 4 参照）

- 工学・技術：16～35 歳の全男性層で最も高い関心分野。女性においては関心度がやや低いものの、第 3 位の選好（特に 16～25 歳）
- 人文科学：女性において最も高い関心分野であり、特に 21～25 歳層、次いで 16～20 歳層
- 芸術・デザイン：女性における第 2 位の関心分野（主に 16～25 歳）

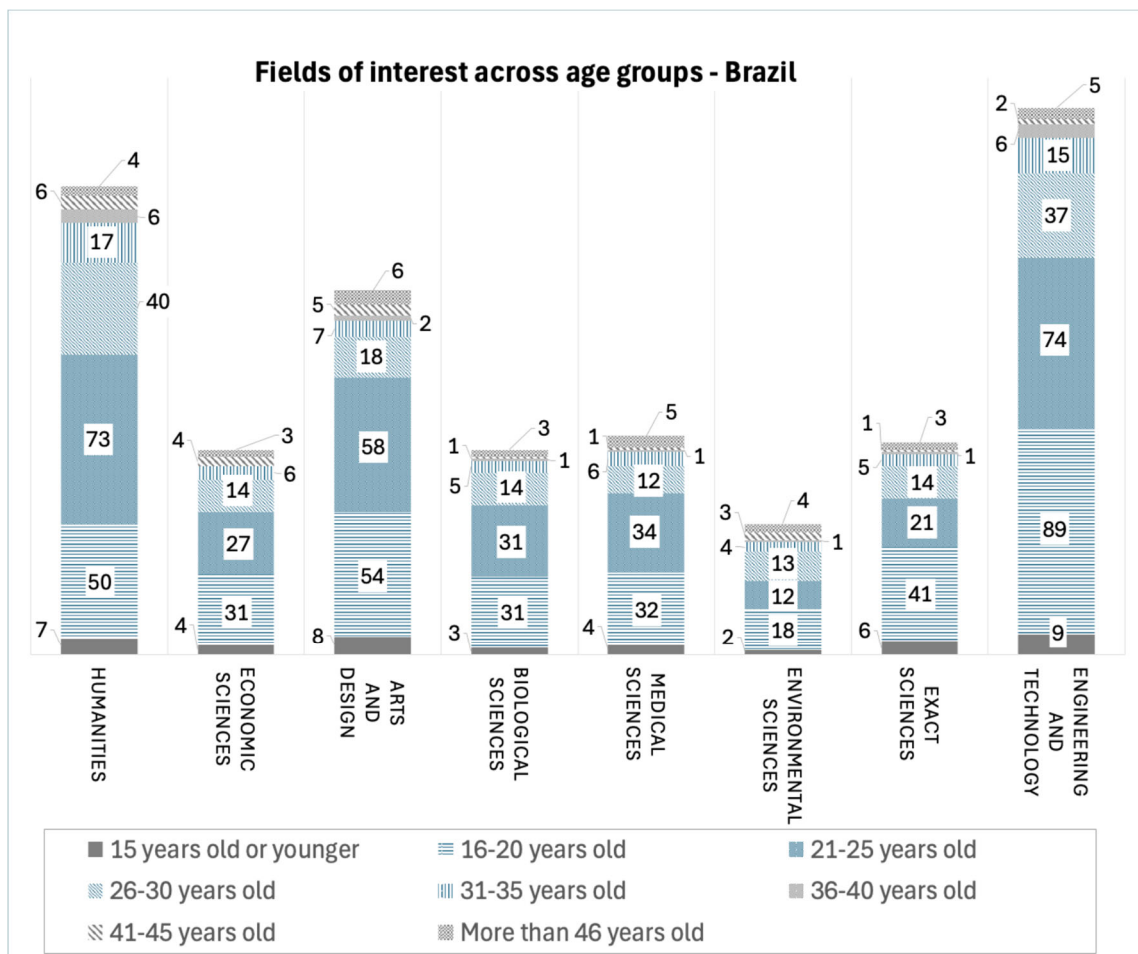


図4 対象5か国別：関心分野および属性傾向-ブラジル

c. チリ（回答数：429）（図5参照）

- 人文科学：女性参加者において高い関心（特に16～20歳および21～25歳）
- 工学・技術：男性において16～35歳の全層で優勢。ただし26～30歳層では人文科学の関心がやや上回る傾向
- 芸術・デザイン：女性では人文科学と同程度の関心。男性では工学・技術の約半分程度の関心

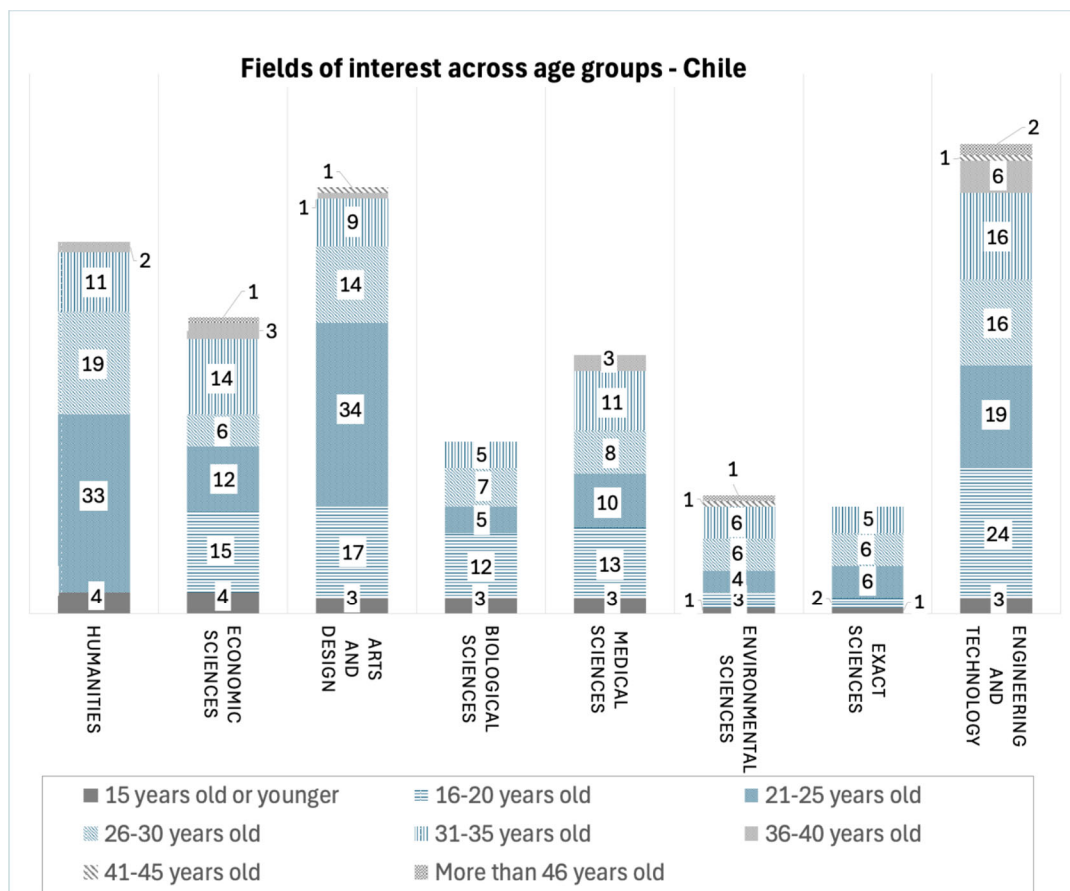


図5 対象5か国別：関心分野および属性傾向-チリ

d. コロンビア（回答数：338）（図6参照）

- 工学・技術：男性（17%）において高い関心（特に21～25歳、次いで16～20歳）
- 芸術・デザイン：男女間でほぼ同程度（女性11%、男性10%）。21～25歳層で最も高く、次いで16～20歳層
- 人文科学：男女ともに関心が見られ、特に16～20歳および21～25歳層（9%）

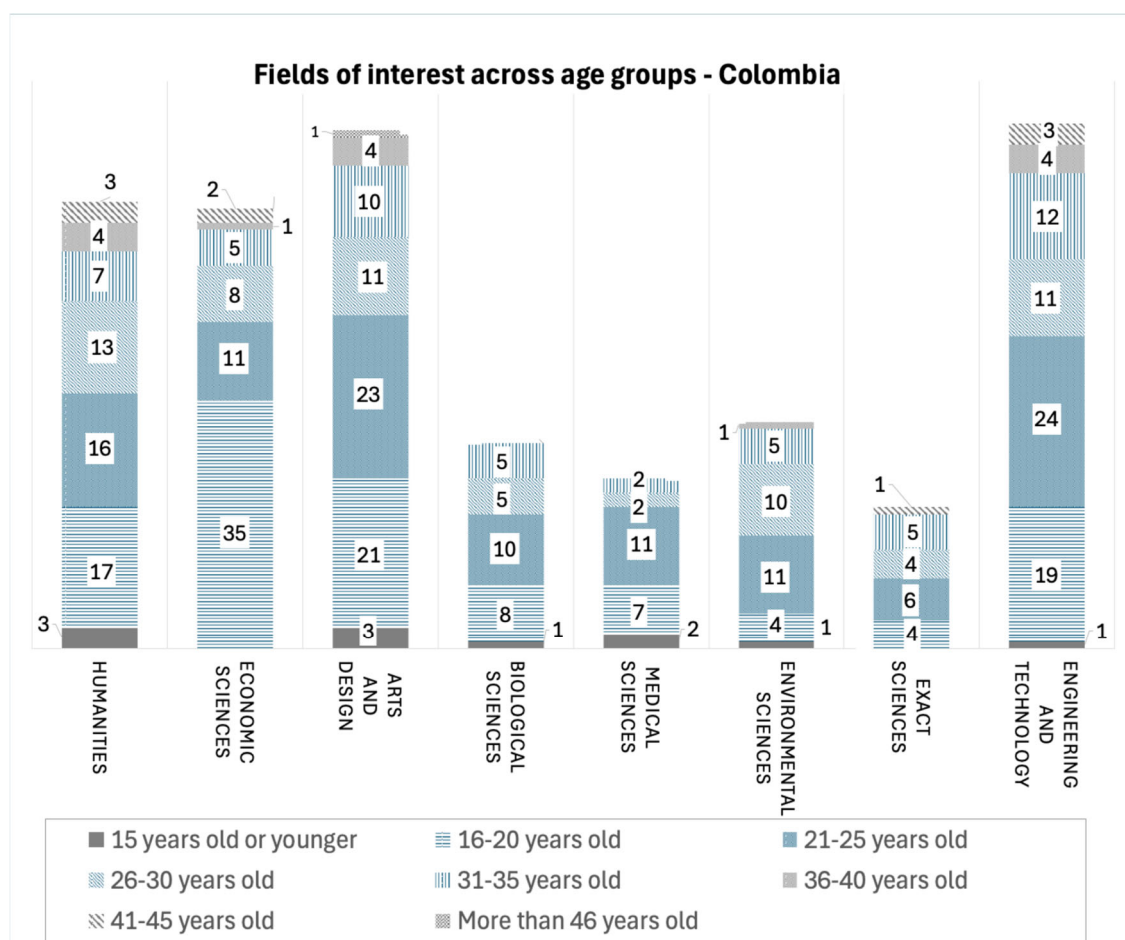


図6 対象5か国別：関心分野および属性傾向-コロンビア

e. ペルー（回答数：443）（図7参照）

- 工学・技術：男女ともに最も高い関心分野（男性18%、女性11%）。男性は21～25歳（7%）および16～20歳（6%）、女性は16～20歳（5%）に集中
- 芸術・デザイン：女性において高い関心（12%、特に16～20歳および21～25歳）。男性は7%（21～25歳が中心）
- 人文科学：女性において顕著（16%、特に16～20歳）。男性は5%で、16～20歳および26～30歳に分散
- 経済学系：全体で15%（女性8%）と、他国と比較して特徴的に高い関心

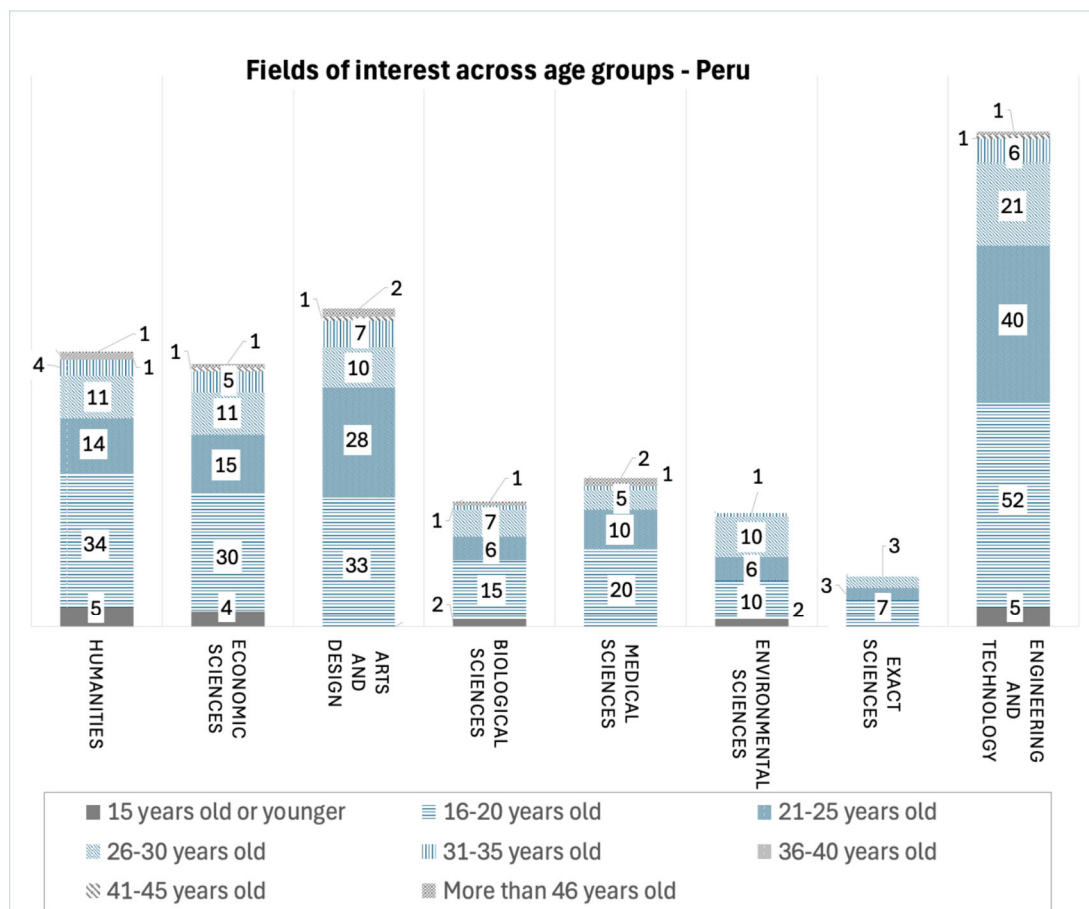


図7 対象5か国別：関心分野および属性傾向-ペルー

総括的傾向（分野別）

- 工学・技術分野（STEM）の優位性

ほぼ全ての国で最も高い関心を集めており、特に21～25歳の男性層で顕著。ブラジルおよびペルーでは特に強い傾向が見られ、ペルーでは女性の関心も比較的高い（11%）。

- ジェンダーによる志向の分化

地域全体において、従来型の傾向が依然として確認される。

- 男性：工学・技術分野への強い志向
- 女性：人文科学および芸術・デザイン分野への高い関心

- ペルーにおける学際的志向

ペルーは、経済学分野への関心（15%）が顕著であり、他国と比較してビジネス・マネジメント志向の強い学生層が存在することが示唆される。

言語能力の観点から見ると、参加者の主な母語がスペイン語およびポルトガル語であるにもかかわらず、本イベントを英語で実施したことは参加の障壁とはならなかった。英語能力では、中級（35%）および上級（32%）の参加者が中心を占めた。上級レベルでは、21～25歳が最も多く（11%）、次いで16～20歳（9%）、26～30歳（7%）が続いた。中級レベルでは、16～20歳（12%）が最大の割合を占め、次いで21～25歳（11%）、26～30歳（6%）となっている。

一方、日本語能力については、初級レベルが全体の52%と多数を占めた。特に21～25歳（18%）および16～20歳（15%）の層が中心であり、26～30歳（10%）がこれに続いた。中級レベルは全体で8%にとどまり、38%の参加者は日本語学習経験がないと回答している。日本以外の留学先志向について複数回答で調査した結果、カナダが14%で最多となり、次いで韓国（12%）、英国（11%）、米国（10%）、中国およびドイツ（各9%）、イタリア（7%）、フランス（6%）、ポルトガル（4%）が続いた。一方、アルゼンチンは2%と最も低い結果となった。これらの結果から、日本留学を志向する参加者は、南米域内よりも他大陸（特に北米・欧州・アジア）への留学志向が強いことが示唆される。特に韓国が第2位、中国が第5位に位置している点は、「主要4か国（米国・英国等）」や欧州に加え、留学先としてアジアへの関心が高まっていることを示している。また、12%の参加者が「日本のみ」を志望しており、日本留学に特化した強い関心層の存在も確認された。

最後に、日本留学の動機としては、日本文化への関心（26%）が最も高く、次いで日本の大学の教育・研究の質（18%）が挙げられた。さらに、キャリア向上の可能性（12%）および日本が強みを有する特定分野への関心（12%）が続き、奨学金・経済的支援への期待（11%）、日本語学習への関心（10%）がこれに続く。また、卒業後の就職機会を理由とする回答も9%見られた。

本事業下のイベントを通じて、参加者の日本留学に対する関心は非常に高いことが確認された。一方で、日本の大学を「信頼性の高い高等教育機関」として継続的に発信していく必要がある。英語による履修機会の提供は、日本を他のアジア諸国と比較した際の重要な選択要因となっているが、卒業後の就業機会が十分に確保されない場合、それだけでは留学先としての魅力を決定づけるには不十分である。

登録データからは、日本の伝統文化や日本語、そして高い教育・研究水準に対する評価が、学生を惹きつける主要な要因であることが示されている。これらの要素は、今後の大学広報およびプロモーション戦略において、より戦略的に活用する必要がある。

また、日本語能力については初級レベルが多数を占めるものの、全体の約50%に相当しており、日本文化や日本社会に対する関心の高さを示している。この関心は、日本の大学および現地の日本関連機関が連携し、日本語教育機会の拡充につなげることで、さらなる留学促進に活用できる可能性がある。

近年、シンガポール、香港、韓国、台湾の4カ国は、政府による投資、高水準の大学、就業機会（特にシンガポール）、英語プログラムの充実（シンガポール、香港）、ソフトパワー（韓国）⁴等を背景に、世界的に人気を高めている。しかしながら、本事業におけるオンラインおよび対面イベント双方での高い参加登録数は、「Study in Japan」の取組を通じて、日本が南米の学生にとって有力な留学先として確実に位置付けられつつあることを示している。

さらに、Keystone Education Group および QS の報告によれば、これらのアジア主要国は主としてアジア域内を対象に留学生獲得戦略を展開しており、ラテンアメリカ市場は相対的に未開拓の領域として残されている。この点は、日本にとって戦略的な優位性を確保し得る重要な機会であると考えられる。

(2) スペイン語圏における日本留学フェアの開催時期及び実施方法の最適化に向けた事前アンケート結果の分析

スペイン語圏における日本留学フェアの更なる効果的实施を目指し、今後の開催時期及び開催方法について、日本の大学を代表した対外的な日本留学プロモーションを最大限実施できる形式を模索するため、本アンケートは、日本側から当該フェアに参加する大学・機関のためのものとして、受入校連絡会議参加大学、南米出身教員及び過去のフェアへの参加歴がある教員に対して実施し、令和8（2026）年 日本留学フェア（ペルー共和国・チリ共和国）事前アンケート（有効回答数：37）の分析を行った。

分析結果の要点は下記のとおりである。

- 現地渡航が可能な大学は限定的であり（山形大学、横浜国立大学、神戸情報大学院大学、名古屋商科大学）、参加可能時期は春～秋に分散するものの、夏～秋（8～11月）に集中する傾向が見られる
- 現地参加が困難な主な理由としては、旅費不足、教職員の人的リソース不足、長期渡航の困難性、大学の戦略対象地域との不一致等が挙げられる

本アンケート結果から、現地派遣による参加は一部大学に限定されるものの、開催時期を夏～秋に設定することで、現地参加を希望する大学の意向と一定程度合致することが明らかとなった。

一方で、多くの大学は資料参加やオンライン形式による関与を志向しており、渡航を前提としない柔軟な参加形態の整備が重要である。

⁴ Hemmings, H. (2025/12/18). The “Asian Tigers” of international study in Asia and the rise of emerging destinations. QS Quacquarelli Symonds. <https://www.qs.com/insights/the-asian-tigers-of-international-study-in-asia-and-the-rise-of-emerging-destinations>

Keystone Education Group (2025/7/3). Asian Tigers see 19% jump in student interest, with growth surpassing traditional international hubs. <https://www.keg.com/asian-tigers-see-19-jump-in-student-interest>

また、教員は研究活動や既存の留学生受入実績を背景に現地派遣に前向きな傾向が見られる一方、事務部門においては予算制約や戦略地域の優先順位等により参加判断が慎重になる傾向が確認された。

このため、現地参加の拡大に向けては、過去の参加実績を有する教員やラテンアメリカ関連分野の研究者への直接的な働きかけ、現地学会との連携等を通じた動機付けが有効であると考えられる。加えて、大学側の参加障壁を低減するためには、旅費支援、短期派遣制度、共同ブースの活用等に加え、オンライン参加や動画・資料送付を組み合わせたハイブリッド型の実施が不可欠である。これらの施策を組み合わせることで、スペイン語圏における日本留学フェアへの参加を促進し、南米地域からの留学生受入拡大につながることを期待される。

6. 令和7年度の総括、課題と次年度への展望

(1) 令和7年度の総括

令和7（2025）年度は、「日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業（南米地域）」において、筑波大学が南米拠点として構築してきた人的・組織的ネットワークを基盤に、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド型の日本留学促進活動を拡充した。

活動形態としては、在外公館共催ウェビナー、現地大学・研究機関主催イベントへの参加、独自企画によるオンライン説明会、現地留学フェア、特定対象層向け説明会、資料提供による参加等、多様な形式を採用した。

令和7年度に実施・参加した主なイベントは、オンライン・現地・資料参加を含め延べ20件以上にのぼり、ウェビナー、国際セミナー、教育フェア、大学紹介イベント、個別相談会、同窓会が主催する日本留学ウェビナー等を通じて、日本留学に関する体系的な情報発信を行った。特に、在サンパウロ日本国総領事館、在クリチバ日本国総領事館、在東京ブラジル総領事館との共催・連携によるイベントでは、公的機関の信頼性を背景に、日本留学および文部科学省国費外国人留学生制度（MEXT奨学金）に関する正確な情報を広く周知することができた。

本事業における各種イベント（ウェビナー、教育フェア、国際イベント、説明会等）の延べ到達人数は対面型イベントで6,891名以上、オンライン型イベントで8,956名以上に達した（オンライン型イベントにはアーカイブ再生数を含む）。

一方で、地域的な広がり観点からも、南米地域全体への波及が確認された。例えば、令和82月に実施したオンライン教育フェアの参加登録者1,643名のうち、ブラジル（562名）に加え、スペイン語圏の対象国・地域からペルー266名、チリ238名、コロンビア185名、アルゼンチン163名、パラグアイ88名、ボリビア32名、ベネズエラ25名、エクアドル14名、ウルグアイ3名、ガイアナ1名 合計1,015名が登録しており（その他の国66名）ポルトガル語圏に加えてスペイン語圏においても日本留学への関心層が広範に形成されていることを見て取ることができる。

このように、本事業は特にオンラインイベントにおいては広域的なリーチを実現しており、日本留学広報として一定の成果を上げたと評価できる。

また、独自企画である「Study in Japan Connect!」ウェビナー（第2回）では、日本の大学15校が参加し、2日間で延べ236名が参加した。本ウェビナーは、9月にブラジル国内で開催された留学フェアと連動した事前広報イベントとして位置付けられ、参加大学にとっては現地参加前に大学の特色やプログラムを紹介できる機会となり、参加学生にとってはフェア参加前に日本の大学情報を整理できる有効な機会となった。

さらに、ポルトガル語・スペイン語によるSNS運用を継続し、イベント告知、アーカイブ動画の周知、個別相談への導線整備を行った結果、イベント後の問い合わせや個別相談件数も増加した。これにより、単発の情報提供にとどまらず、継続的な接点形成と関心層の蓄積が進んだ点も、本年度の重要な成果である。

(2) 令和7年度における課題

一方で、活動規模の拡大と成果の可視化が進む中で、いくつかの課題も明確となった。

第一に、情報到達人数の増加と実際の出願・留学実現との間に存在するギャップである。

本年度は延べ5,000名超に日本留学情報を届けることができた一方、出願準備段階まで進む層は限定的であり、関心喚起後のフォローアップ体制の強化が必要であることが明らかとなった。特に、奨学金応募条件や語学要件に対する理解不足が、次のステップへの移行を妨げる要因となっているケースが多く見られた。

第二に、言語および進学制度の複雑さへの対応である。南米地域では、英語学位プログラム志向、日本語学位志向、将来的な大学院進学を見据えた段階的留学志向など、学生のニーズが多様化している。現地語による説明は理解促進に有効である一方、日本の大学制度や入試・奨学金制度の複雑さが、進学検討の心理的障壁となっている側面も否めない。

第三に、対面活動とオンライン活動の最適な役割分担である。留学フェア参加者、参加大学・機関双方にとって、対面でなければ得難い情報が存在する一方で、日本から参加する大学・機関にとっては、南米への渡航費や渡航に必要な日数が課題となっていることが明らかになった。今後は、対面及びオンラインそれぞれの効果的な活用方法について、さらに検討を進める必要がある。

現地留学フェアや学校訪問は高い訴求効果を有する一方で、人的・時間的・財政的負担が大きい。限られたリソースの中で、どの地域・どの対象層に対面活動を重点化すべきかについて、より戦略的な判断が求められる。

(3) 次年度（令和8年度）への展望

令和8（2026）年度は、これまでに構築したネットワークと年間5,000名超への到達実績を基盤に、「関心喚起」から「留学実現」への転換を図る年度として位置付ける。

第一に、国際バカロレア（IB）課程を有する学校や国際志向校への新規アプローチを本格化させる。ブラジルおよび LATAM 地域に所在する IB 校や海外進学志向の強い中等教育機関に対し、日本の英語学位プログラム、日本語学位プログラム、奨学金制度を体系的に紹介し、日本留学を将来の進路選択肢の一つとして早期に認識してもらうことを目指す。

第二に、ブラジルに加え LATAM 地域への地理的拡大を進める。アルゼンチン、コロンビア、ペルー、チリ等のスペイン語圏諸国において、現地大学・教育機関、在外公館、日本語教育機関との連携を強化し、地域特性に応じたオンライン・対面活動を展開する。

第三に、ハイブリッド形式による持続的な対応を基本方針とする。現地フェアや学校訪問による対面活動と、オンライン説明会、アーカイブ配信、個別相談を組み合わせ、参加者のニーズに応じた柔軟な支援体制を構築する。

第四に、日本語普及を担う関係機関との連携強化を図る。国際交流基金、日本語教育機関、現地日本語教師ネットワーク等と協力し、日本語学習段階から日本留学への接続を意識した情報提供を行うことで、日本語教育と高等教育進学を一体的に捉えた支援モデルを構築する。